

**平成 30 年度 スポーツ庁委託事業
スポーツ産業の成長促進事業
「地域の指導者を主体とした
スポーツエコシステム構築推進事業」
(地域スポーツ資源活用モデル形成支援事業)**

**KOBE 健康経営推進型スポーツエコシステム
成果報告書**

2019 年 3 月
株式会社 NTT データ経営研究所

本報告書は、平成 30 年度スポーツ庁委託事業として株式会社 NTT データ経営研究所が実施したスポーツ産業の成長促進事業「地域の指導者を主体としたスポーツエコシステム構築推進事業」（地域スポーツ資源活用モデル形成支援事業）の成果を取りまとめたものです。従って、本報告書の複製、転載、引用等にはスポーツ庁の承認が必要となります。

目次

1. 背景及び目的	2
2. 実証事業実施概要	3
2.1 KOBE 健康経営推進型スポーツエコシステム	4
2.1.1 目的	4
2.1.2 事業実施フロー	5
2.2 小学校の体育施設活用型スポーツエコシステム	6
2.2.1 目的	6
2.2.2 事業実施フロー	7
3. 実証事業実施内容	8
3.1 KOBE 健康経営推進型スポーツエコシステム	8
3.1.1 関係者の現状・意向調査	8
3.1.2 エコシステムモデル構築	33
3.1.3 マッチング	41
3.1.4 教室開催	47
3.1.5 事後評価	48
3.2 小学校の体育施設活用型スポーツエコシステム	61
3.2.1 関係者の現状・意向調査	61
3.2.2 エコシステムモデル構築	65
4. 考察	67
4.1 スポーツ指導者についての課題と考察	67
4.2 施設利用についての課題と考察	68
4.3 利用者についての課題と考察	69
4.4 ICTについての課題と考察	70
4.5 スポーツエコシステムの考察	71
5. 今後の展開	72
5.1 KOBE 健康経営推進型スポーツエコシステム	72
5.2 小学校の体育施設活用型スポーツエコシステム	72

1. 背景及び目的

「日本再興戦略 2016」（平成 28 年 6 月 2 日閣議決定）においてスポーツ・文化の成長産業化が明示され、「スポーツ市場規模（2015 年：5.5 兆円）を 2020 年までに 10 兆円、2025 年までに 15 兆円に拡大することを目指す」及び「成人の週 1 回以上のスポーツ実施率を、現状の 40.4%から 2021 年までに 65%に向上することを目指す」という 2 つの KPI が設定された。

さらに、2020 年東京オリンピック・パラリンピック競技大会等を目前に控え、スポーツを通じた経済活性化に期待が高まっている。特に、スポーツ分野の産業化を進めることにより、スポーツ市場を拡大し、その収益をスポーツ環境の充実に還元し、スポーツ参画人口が拡大する好循環を成立させることにより、持続可能なスポーツ産業の活性化につなげる仕組み「スポーツエコシステム」を構築することが期待されている。

本事業は、官民が一体となり、スポーツ指導者や指導プログラム、スポーツ施設等のリソースを利用して、ICT の活用等（例：シェアリングエコノミーの活用等）により利用者の利便性向上や付加価値の向上を図り、スポーツ参加人口の増加、新たな指導ビジネスの創出及びスポーツ施設の収入向上といったスポーツエコシステムを実現する上で重要な事項を実証することが目的である。

特に、神戸市におけるスポーツ実施率向上と公共施設の稼働率向上、スポーツ指導者の活躍の場の増大を目指し、以下のようにスポーツ機会の創出を行う。

- ①働く世代など地域住民の実実施率向上に向けた取組として、公共スポーツ施設・企業会議室等を活用した働く世代に対するスポーツ機会の提供を行う。
- ②小中高等学校の生徒等やその家族、地区住民等を対象とした公共施設（学校等）におけるスポーツ機会の創出を行う。
- ③公共スポーツ施設、学校施設、企業会議室等の情報を統合し、スポーツ指導者が新たなスポーツ教室等を創出することができるスポーツエコシステムプラットフォーム（仕組み）を構築する。

2. 実証事業実施概要

神戸市内のスポーツ施設の情報をスポーツ指導者・企業等に開放することにより、新たなスポーツ利用機会を生み出すためのプラットフォームを構築するため、スポーツ指導者、スポーツ施設、地域内の企業や学校等の現状と課題について調査を行い、スポーツエコシステムを構築するための課題や解決策を検討した。

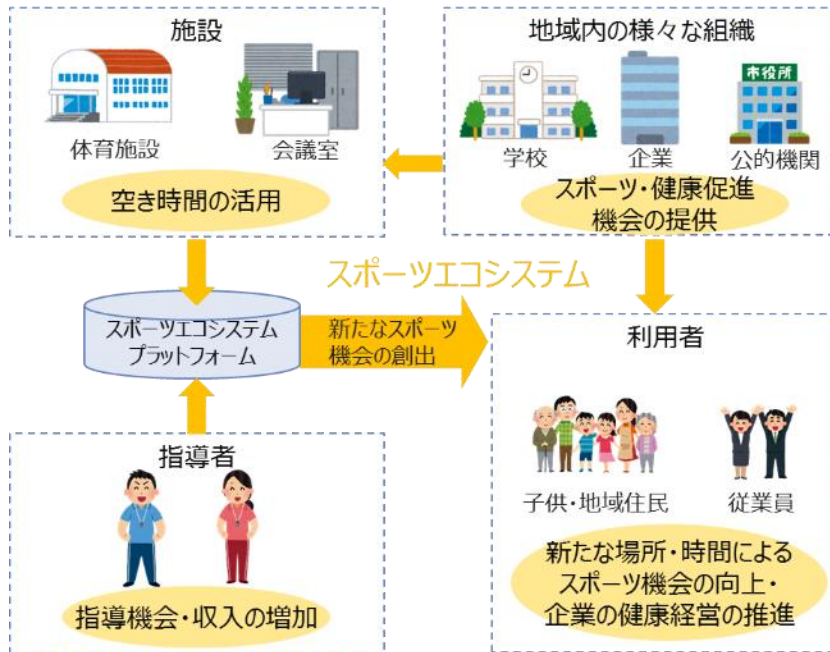


図 1 スポーツエコシステムの構築イメージ

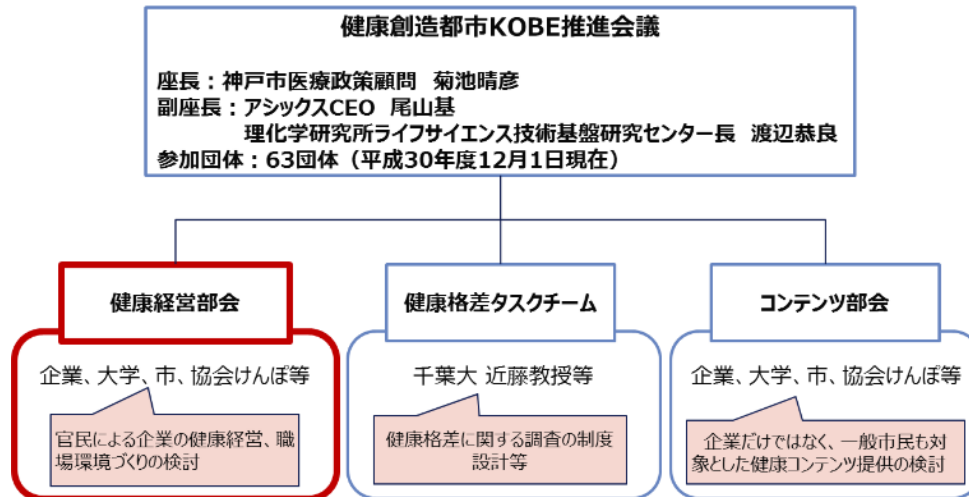
本事業は神戸市保健福祉局健康部健康政策課が推進している「健康創造都市 KOBE 推進会議」の健康経営部会と協力を行った「KOBE 健康経営推進型スポーツエコシステム」と、神戸市教育委員会事務局スポーツ体育課と協力を行った「小学校の体育施設活用型スポーツエコシステム」の2つの取組を実施した。

「KOBE 健康経営推進型スポーツエコシステム」については、マッチングを行い、教室開催、評価を行った。「小学校の体育施設活用型スポーツエコシステム」については、検討の過程で、年度内に一部の小学校で実証を行うことが地域の他の小学校に対する公平性の観点から困難であるとの結論に至ったため、関係者へのヒアリングを通じて課題を抽出し、構築すべきモデルを検討した。

2.1 KOBE 健康経営推進型スポーツエコシステム

2.1.1 目的

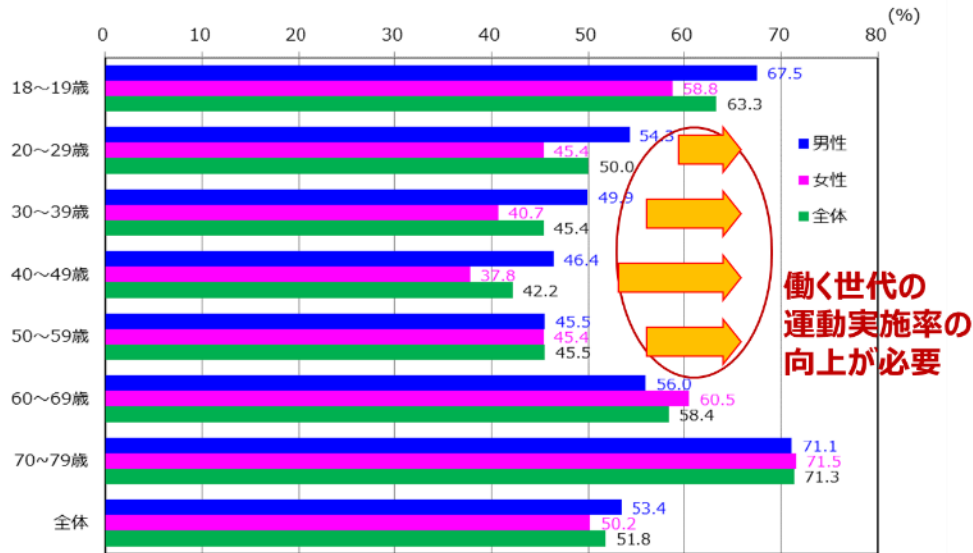
神戸市には、全国でもトップレベルの健康経営を推進し「健康経営銘柄」を取得している企業が複数あり、市内経済団体や健康保険協会等の団体も市内企業の健康経営を推進していることなどを背景に、「健康創造都市 KOBE 推進会議」を設置しており、市民 PHR システム「MY CONDITIN KOBE」の構築や、企業の健康経営の推進、食育フェアの開催、健康格差の調査等を行っている。



出典) NTT データ経営研究所作成

図 2 健康創造都市 KOBE 推進会議

一方、週 1 日以上運動・スポーツをする者の割合は、20 歳以上男女の平均で 51.5%であり、10 歳代および 60 歳代以上の実施率は高いが、20 歳代から 50 歳代、つまり仕事に従事している世代のスポーツ実施率が低いことが全国的な課題である。つまり、「日本再興戦略 2016」で記載された「成人の週 1 回以上のスポーツ実施率を 2021 年までに 65%に向上することを目指す」ためには、特に働く世代の運動実施率の向上が必要だと考えられる。これは、健康経営に取り組む企業の課題感である「従業員の健康促進」と一致するため、本事業では、健康創造都市 KOBE 推進会議の健康経営部会との連携により、社員の健康増進対策に取り組む企業と、スポーツ指導者をマッチングすることにより、特に運動実施率が低い働く世代の運動機会を生み出すことにより、新しい市場を創出するスポーツエコシステムの構築を目指した。



(出典)「スポーツの実施状況等に関する世論調査(平成29年度)」

出典)「スポーツの実施状況等に関する世論調査」(平成29年度) スポーツ庁に
NTT データ経営研究所追記

図 3 世代・性別ごとの運動実施率

2.1.2 事業実施フロー

本事業は、以下のように関係者の現状・意向調査を行い、それぞれの状況やニーズに合わせる形でエコシステムモデルを構築した。その後、指導者と企業、場所のマッチングを行い、教室開催、評価を行った。



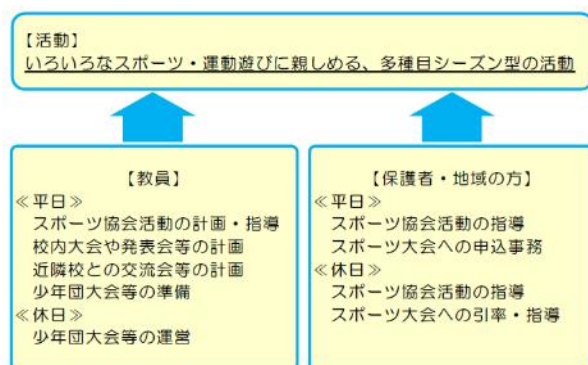
出典) NTT データ経営研究所作成

図 4 調査・実証実施フロー

2.2 小学校の体育施設活用型スポーツエコシステム

2.2.1 目的

神戸市では学校教員の負担軽減のため、平成 29 年度より小学校での早朝・放課後・休日のスポーツ活動を学校活動から切り離し、地域の社会体育とすることとなった。小学校単位でスポーツ協会が設置され、各校が児童や地域の実態に応じて「活動計画」を作成し、生徒が様々なスポーツを体験することができるようシーズンごとのスポーツ教室等を実施している。しかし、高学年を対象としたスポーツ大会への参加のための準備期間としてスポーツ協会活動を多くの学校で実施しており、始業前や放課後、休日の練習が過熱し、教員の負担が増大する結果となってしまっている。現在は、学校教員や地域のボランティアが計画・指導を担っているが、学校教員の負担軽減をより進めるためには、外部指導者の確保が必要になる。そこで、スポーツ協会活動の内外でスポーツ指導者を活用することにより、学校教員の負担軽減となるモデルを検討した。



出典) 神戸市資料 (<http://www.city.kobe.lg.jp/culture/sports/event/shiryo2320170801.pdf>)

図 5 神戸市の小学校のスポーツ協会活動の概要

表 1 これまでのスポーツ協会活動の実施例：神戸市内小学校

種 目	活動期間	活動日(回数)	参加学年	参加人数(人)	交流会の開催	指導者・支援者数(人)
ソフトバレーボール	5・6月	平日と休日(30)	5・6年	120	×	13
バレーボール	7・8月	平日と休日(32)	5・6年	46	○	13
水泳	7月	平日と休日(10)	4~6年	30	×	8
ドッジボール	10・11・2月	平日と休日(28)	3・4年	96	○	7
陸上競技	10月	平日(18)	5・6年	48	×	6
一輪車	10月	平日(3)	3・4年	9	×	2
駅伝競走	11・12月	平日(12)	4~6年	59	×	5
ロードレース	12月	平日(18)	1~6年	82	×	17
卓球	11~2月	平日と休日(19)	5・6年	65	×	5
バスケットボール	12~2月	平日と休日(42)	5・6年	74	○	9
サッカー	2・3月	平日と休日(20)	5・6年	96	○	8
クロスカントリー	1・2月	平日(21)	5・6年	53	×	9
陸上競技(リレー)	3月	平日(16)	5年	5	×	3
計		269回		782人		105人
交流会の記録	実施時期	参加学年	交 流 校			
バレーボール	8月	5・6年男女	広陵小・桜の宮			
ドッジボール	11月	3・4年男女	北五葉小			
バスケットボール	12・1月	5・6年男女	北五葉小・筑紫が丘小・箕谷小・桜の宮小・広陵小・花山小・中央小			
サッカー	2月	5・6年男女	広陵小			

出典) 神戸市資料

(http://www.mext.go.jp/prev_sports/comp/b_menu/other/_icsFiles/afieldfile/2012/07/18/1321187_11.pdf)

2.2.2 事業実施フロー

小学校の体育施設活用に関しても、関係者の現状・意向調査を行った。教育委員会、学校長等、それぞれの意向・必要な調整事項があったため、エコシステムの構築・教室開催には至っていないが、実施のための課題抽出等を行った。

3. 実証事業実施内容

3.1 KOBE 健康経営推進型スポーツエコシステム

3.1.1 関係者の現状・意向調査

指導者・施設・企業をマッチングするスポーツエコシステムの構築に向け、スポーツ指導者、スポーツ施設、利用者（従業員を抱える企業）に対し、健康経営におけるスポーツ増進の現状、課題、および KOBE 健康経営推進型スポーツエコシステムへの協力の可能性について調査を行った。

(1) スポーツ指導者に関する調査

兵庫県内でスポーツ指導者を保有している団体として、以下の団体にヒアリングを行い、現状・課題・スポーツエコシステムへの協力可能性について調査を行った。

これらの結果から、個人で活動する指導者から指導機会を求める声は多く、指導者がスポーツエコシステムへ参画する見込みは高い。一方、マッチングを多く成立させる仕組みや自走化の目処が明らかでない団体としては協力が難しい状況であること、スポーツ関連企業の実施する自社事業と競合しないよう配慮が必要になることが明らかになった。

表 2 ヒアリング実施団体一覧（スポーツ指導者に関する調査）

	企業・団体名
1	特定非営利活動法人 日本健康運動指導士会兵庫県支部
2	公益社団法人兵庫県栄養士会
3	ひょうご広域スポーツセンター (公益財団法人兵庫県体育協会内)
4	企業 A
5	企業 B

出典) NTT データ経営研究所作成

1) 日本健康運動指導士会兵庫県支部ヒアリング結果

健康運動指導士、健康運動実践指導者へ情報を提供することが可能である。資格を今以上に活かし、少しでも収入を上げたいという声が多いので、マッチングシステムがあると有資格者にとってメリットがある。特に医療機関、介護予防施設等に所属せずフリーランスで働いている健康運動指導士が約 2,000 人おり、その方にとってメリットがある。

日本健康運動指導士会の事務局の人数には限りがあるため、システムの運営や教室企画の役割を担うことは難しい。

2) 兵庫県栄養士会ヒアリング結果

栄養士会としてすでに一定数の教室を開催している。栄養士個人が企画を作成し登録す

るよりも、コンテンツを希望する企業・団体にあわせた人材を栄養士会として選定し派遣する手法のほうが円滑であると考える。

食育 SAT システムを含め、若年層から高齢者の方向けの内容、スポーツに特化した内容やお子様向けの内容に特化したものなど、内容は企業・団体の状況に合わせて実施することが可能である。

3) ひょうご広域スポーツセンター（公益財団法人兵庫県体育協会内）ヒアリング結果

指導者バンクの主な登録者は退職後のシニア世代、企業に勤めている人、大学生など多岐に渡るものの、自ら指導者の資格を取得して登録する人たちであり、指導に対する意欲を持っている。そのため、マッチングの構想には意義がある。また、ひょうご広域スポーツセンターとしても、スポーツの力で地域に貢献するため、スポーツと地元企業との関係を強める必要性を感じているため、スポーツと企業の接点が生まれることに期待が持てる。

現状の各種スポーツ関連の資格者登録制度において、指導者の活躍機会を増大させる点で課題がある場合が多い。今回構築するマッチングシステムにおいても工夫が必要である。

また、指導者の質の担保という点で、登録可能な指導者の基準を明確にすることや、指導される側である利用者が指導をレビューするような双方向の評価の仕組み等を検討すべきである。

4) 企業 A ヒアリング結果

教室のコンテンツと指導者を提供することができる。

自社で教室を開催しているものの、教室の情報を自社ホームページで告知しているのみであるため、自社を認知している層にしかリーチできない。マッチングシステムによってこれまで情報を届けられなかった企業等に情報を届けられることはメリットである。

問題としては、指導者の年間スケジュールが決まっているため、イレギュラーな教室を企画することは難しいことが挙げられる。

指導者以外に開催場所の面では、自社の企画であれば自社の所有する体育施設や控室を利用することができるほか、民間の体育施設を借用する方法が考えられる。公共施設は、スクール事業で使用する場合は営利用にあたる点に注意が必要である。

5) 企業 B ヒアリング結果

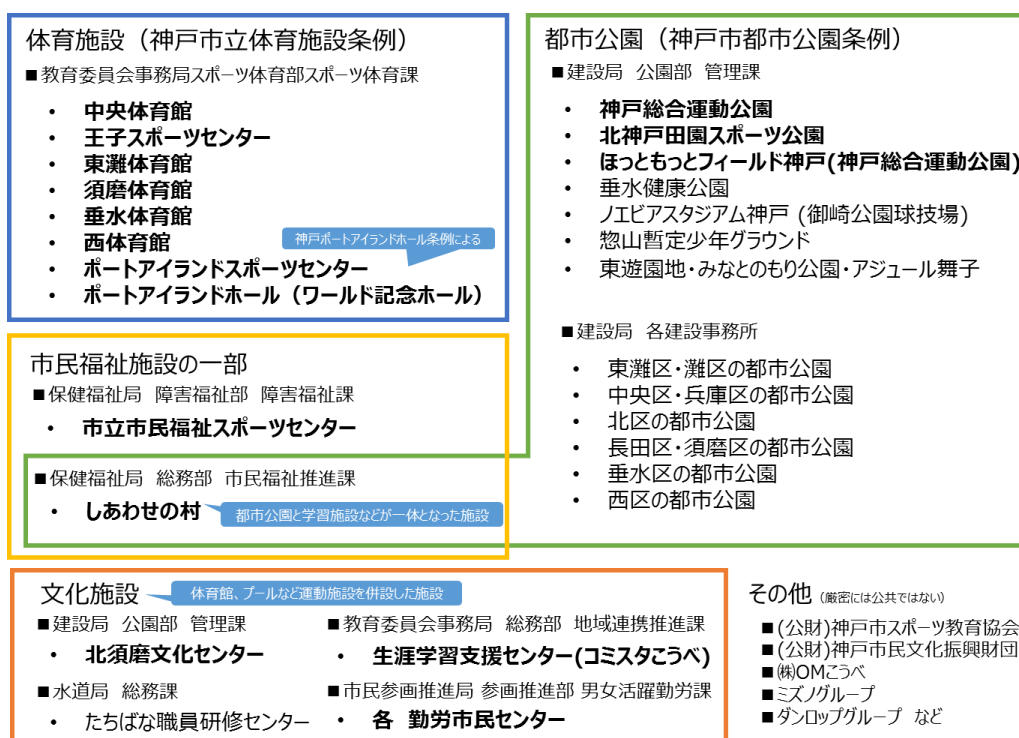
自社に所属する保健師や管理栄養士等の有資格者が業務として教室を開催することや、自社で開催する教室をマッチングシステムに登録することは不可能ではないものの、自社ホームページで行う受付とマッチングシステムで行う受付にタイムラグが生じる点はリスクである。企業としては、マッチングシステムへの参画には事業として成立するか検討が必要である。

個人事業主である指導者からは、より多くの指導を行いたいという希望があるため、マッチングシステムはメリットが大きい仕組みであろう。

スポーツ関連事業者のなかでも、スポーツジム・クラブ等の運営を主とする企業は、マッチングシステムがジム事業と競合する事業とならないことにも留意が必要である。具体的には、ジム・クラブにおけるコンテンツをマッチングシステムに公開し、開催される教室で指導が受けられる状態にすることで、ジムに会員登録をしてトレーニングを受ける顧客を減少させる可能性がある。そのため、ジム・クラブの会員でなくても受講できる状態にすることにはハードルがある。一方、スポーツ用品の販売を主とする事業者にとっては、教室の開催によるスポーツ人口の拡大が、既存のスポーツ用品販売を促進するため、親和性があると考えられる。

(2) スポーツ施設に関する調査

ウェブサイト等の情報により、神戸市内のスポーツに関連する公共施設について調査をしたところ、以下の状況であることが分かった。



※太字表記： 指定管理事業管理者による管理

出典）KOBE SPORTS WEB（<https://kobe-sportsweb.com/>）を参考に NTT データ経営研究所作成

図 6 神戸市の公共施設の整理

スポーツが実施できる施設は体育館、公園・グラウンド、福祉施設、文化センターと多岐にわたり、公共施設に限っても所管課が複数あるため、統一して空き情報や予約情報を管理することが困難な状況にある。

また、神戸市内で公共施設を管理・管轄している以下の団体にヒアリングを行い、現状・課題・スポーツエコシステムへの協力可能性について調査を行った。

これらの結果から、公共施設のなかでも稼働率の低い設備を利用できる可能性があることがわかった。一方で、公共施設をスポーツ指導者の指導の場として利用する場合には営利目的とみなされるため、条例により通常よりも高い使用料が課せられること、抽選により予約を取得するシステムでは定期開催が難しいことが障壁となることが明らかになった。また、指定管理者制度において施設の目的外使用が認められない場合が多いことも障壁となることが明らかとなった。

表 3 ヒアリング実施団体一覧（公共施設に関する調査）

	企業・団体名
1	神戸市立王子スポーツセンター (公益財団法人神戸市スポーツ教育協会)
2	神戸市建設局公園部
3	企業 B

出典) NTT データ経営研究所作成

1) 王子スポーツセンターヒアリング結果

神戸市において、体育館は体育施設条例、屋外施設は都市公園条例等、条例において料金等が規定されている。通常の予約フローに従って施設を利用することに問題はないが、指導者による教室開催のための利用は営利目的とみなされるため、一般市民の使用料とは異なる料金（王子スポーツセンターの場合は、一般市民による使用料の 6 倍）が適用される点に注意が必要である。これは条例で定められていることであるため、運用を変更するためには条例の見直しが必要となる。また、利用予約は抽選により行われるため、週一回開催等の定期的な教室の利用には向かない。

施設としては、事前登録した市民の団体によるリピート利用が盛んで、稼働率が約 94% にのぼるため、稼働率を上げる切実なニーズはないのが現状である。特に体育館の稼働率は高い。柔道場と剣道場の稼働率は約 60% に留まるものの、武道を目的とした利用を基本としているため、武道以外の利用により稼働率を上げることは消極的な考えである。例外として武道以外の目的で使用するときの使用料は、通常の 2 倍とすることが条例により規定されている。

マッチングシステムへの情報公開という観点では、各施設のシステムを統一するために、種目により必要設備、必要面積が異なる点がネックとなると想定される。現在、予約を電話で受け付けた上で、データをシステムに入力し、予約状況をインターネットへ公開している。現在のシステムは約 10 年前に神戸市内の公共スポーツ施設でそれぞれ開発されたもので、施設ごとにカスタマイズされている。

表 4 スポーツセンターの稼働状況の例（一部抜粋）

体育館

	9~12	12~15	15~17	17~19	19~21
月	桃	赤	桃	赤	桃
火	桃	白	桃	赤	赤
水	赤	赤	赤	赤	赤
木	桃	赤	赤	白	桃
金	赤	赤	赤	白	白
土	赤	赤	赤	赤	赤
日	赤	赤	赤	赤	赤

バレーテニス

	9~11	11~13	13~15	15~17
月	白	白	桃	桃
火	桃	桃	白	白
水	桃	桃	白	桃
木	桃	桃	白	白
金	桃	白	白	白
土	赤	桃	桃	赤
日	白	赤	赤	赤

柔道場

	9~12	12~15	15~17
月	白	白	桃
火	白	白	桃
水	白	白	白
木	白	白	桃
金	白	白	赤
土	白	赤	白
日	桃	白	赤

体育館会議室

	9~12	12~15	15~17
月	桃	桃	白
火	白	白	赤
水	白	赤	桃
木	桃	桃	白
金	白	白	白
土	白	白	白
日	白	白	白

※稼働率 100%を赤、90%以上を橙、90%未満~70%以上を桃、70%未満を白で表示
 出典) 王子スポーツセンター提供データをもとに NTT データ経営研究所作成

2) 神戸市建設局公園部ヒアリング結果

球技場、野球場、テニスコート等、体育館以外の運動施設については、平日の日中等、曜日・時間帯によって稼働率が 20~60%の場合があるため、活用の余地がある。また、区民センター等文化施設の会議室は稼働率が約 30%に留まっているため、同様に活用の余地がある。一方で、条例により営利目的での利用については利用料が一般の利用とは異なる点に注意すべきである。

公園については、公園内に多目的広場という壁で囲まれたスペースがあり、少年野球、グラウンドゴルフ等ができるようになっており、各地域に設置した公園管理会が予約の調整・清掃・水撒きなどを担っている。ただし、一般市民の参加が可能な地域に開かれた教室であれば問題ないが、企業の福利厚生で活用する場合は、営利目的の利用としての許可が必要である。

マッチングシステムへの情報公開という観点では、市内のスポーツ施設、区民センター毎に管理者が異なるため、リアルタイムには一元的には管理されていない。野球場、球技場、テニスコートについては市の施設予約のシステム「あじさいネット」において、予約状況の確認や予約申し込みを行うことができる。体育館等のデータが統合できない理由としては、利用面積の区分が複雑であることが挙げられる。

3) 企業 B ヒアリング結果

事業としての採算の見通しが無い状況では企業として参画することはできない。

また、当社は市内の施設の指定管理事業者であるが、指定管理施設を指定管理事業者が使用する場合であっても、自治体によって当初の申請にない内容での利用には目的外使用料が必要となる可能性があることに注意が必要である。

(3) 利用者に関する調査（健康経営部会）

1) 健康経営部会結果

神戸市の協力を得て、健康創造都市 KOBE 推進会議の健康経営部会において、神戸市内の企業・団体とエコシステム構築について検討した。検討を実施した会議は以下の通りである。

表 5 神戸市内の企業・団体との検討実施一覧

	会議名	日時・場所	議題
1	健康創造都市 KOBE 推進会議 事務局会議	2018年6月28日(木) 10時～12時 iKaFe (サンパル 7階)	・実証事業推進の確認 ・今後の進め方確認
2	健康創造都市 KOBE 推進会議 第1回健康経営部会 ※ワークショップ同日開催	2018年7月18日(水) 15時～15時30分 iKaFe (サンパル 7階)	・部会企業に対する実証事業の説明 ・企業の意向確認のための ワークショップ開催
3	健康創造都市 KOBE 推進会議 第2回健康経営部会	2018年10月24日(水) 13時30分～15時 三宮研修センター 705	・実証事業運用開始の連絡 ・運用方法の周知・説明
4	健康創造都市 KOBE 推進会議 第3回健康経営部会	2019年1月18日(金) 15時30分～17時 iKaFe (サンパル 7階)	・実証事業実施状況報告 ・次年度体制の相談
5	健康創造都市 KOBE 推進会議 幹事会	2019年1月28日(月) 13時30分～15時30分 三宮研修センター 705	・実証事業実施状況報告
6	こうべ健康経営会議 2019	2019年3月18日(月) 14時～17時 神戸新聞社松方ホール	・実証事業の報告 ・地域への普及・広報

出典) NTT データ経営研究所作成

2) ワークショップ

健康創造都市 KOBE 推進会議健康経営部会の会員企業に対し、健康経営に対する現状の取り組みや教室開催に対するニーズを把握するため、及び、本事業に主体的に参加してもらう意識を形成するためにワークショップを開催した。

表 6 ワークショップ実施概要

件名	健康経営推進ワークショップ
目的	企業の従業員の運動・スポーツに対する意識やニーズを把握し、今後運動指導者が実施する教室・プログラムの参考にするため。
実施期間	2018年7月18日 15時30分～17時00分
実施場所	iKaFE(サンパル7階) (神戸市中央区雲井通5-3-1)
対象者	健康創造都市 KOBE 推進会議健康経営部会会員企業 特に、福利厚生担当者(実務者) 企業でスポーツサークルを企画したり、実施したりしている方 社内のコミュニケーション機会を創出しようとしている方
参加者数	10企業(12名)、神戸市



図 7 ワークショップ開催の様子

- 自社で実施されている従業員向けの健康増進事業（運動関連）
 - ✓ サークル活動、教室・セミナー、日常生活での健康活動推進などが挙げられた。

表 7 自社で実施されている健康増進事業（運動関連）

分類	具体例
サークル活動	・社内のスポーツサークル(野球、サッカー、ゴルフ) ・社内スポーツ部 ・社内のスポーツサークル(ダンス、バスケ) ・テニスサークル
教室・セミナー	・ウォーキング・ランニングセミナー ・ヨガ教室
日常生活での健康活動	・社屋ビルの階段利用促進 ・歩数競争 ・アルキング・ウォーキング ・ラジオ体操 ・会議室にバランスボール設置
補助	・スポーツクラブへの参加補助
人材育成	・スポーツ栄養士の育成
スポーツイベント	・社内コンペ ・神戸マラソンへの参加呼びかけ
その他	・健康診断 ・時短

- 参加すべき人が参加しない理由
 - ✓ 従業員の健康増進のための取り組みを開催しても、参加してほしい人(運動不足、生活習慣病予備群等)が参加しないという課題がある。本来、参加すべき人が参加しない理由を検討したところ、本人、身体、時間、ファシリティ、プロモーションの面で問題があると整理された。

表 8 取り組みに社員が参加しない理由

分類	具体例
本人の動機	・スポーツが嫌い ・時間があればスポーツよりやりたいことがある ・運動する必要性を感じていない(気づいていない、自信がある) ・そこまでやる気が出ない ・人と交流したくない(特に若手) ・運動をしなければならないと思っていない(危機感がない) ・自分は健康だと過信している ・興味がない ・しんどいのが嫌 ・プライベートは会社の人と過ごしたくない
身体の問題	・疲労蓄積、時間があったら休みたい ・腰痛があるなど体調不良 ・そもそも仕事で疲れている
時間の問題	・忙しい ・終業時間が不規則、残業突発
ファシリティの問題	・着替える場所がない、着替え・用具の準備が面倒
会社のプロモーションの問題	・制度等が知られていない

- 取り組みに参加しない人が取り組みに参加したくなるアイデア
 - ✓ インセンティブを与えること、運動を訴求しない方法でアプローチすること、会社の活動に組み入れること、運動をしたくない人の背景にある環境を整えることなどが挙げられた。

表 9 取り組みに参加しない人が参加したくなるアイデア

分類	具体例
運動を訴求するインセンティブ	<ul style="list-style-type: none"> ・お金、景品、ポイント、食事、有名人、美男美女に会えるなどのインセンティブをつける ・タダで習い事ができる ・簡易診断を実施し、数値でみせてあおる ・健康診断とセットで勧める ・仲間で目標をつくる(例:毎回の会費をためて有名会場(例えば甲子園等)にいかう等) ・他社と合同で実施する(ビジネス、プライベートの出会いの促進) ・親子で参加できる教室(ダンス教室等)
運動を訴求しない方策	<ul style="list-style-type: none"> ・インスタ映えするところに行くなど流行を採り入れたイベントをつくる ・疲れている人向けに癒やしや休息の機会を提供(ストレッチ、温泉、腰痛改善) ・友人同士での参加を促す ・おいしいもの(ごほうび)とのセット企画 ・温泉とセット
会社の活動に組み入れる	<ul style="list-style-type: none"> ・例えば子供向けダンス教室などの社会貢献事業に参加させ、参加者にもダンスさせる ・社員研修にする ・企業間交流の場にする(運動+飲み会・ランチなど) ・昼休みに実施する ・勤務時間中に実施(定時を早める日を作る)
環境整備	<ul style="list-style-type: none"> ・休みをとらせる ・業務時間内にできることにする ・栄養価の高いまかないにする(飲食事業者) ・手ぶら参加可能なものにする・用具等を会社に用意しておく ・3分で終わらせる ・働き方改革とセットで勧める ・市から企業に依頼する
具体的な案	<ul style="list-style-type: none"> ・企業対抗運動会 ・ヨガ、呼吸法、ダイエット、ビューティ等のコンセプト ・パーソナルトレーニング ・最新のVRスポーツ体験 ・やったことのないスポーツ(アーチェリー等)を毎回楽しめる ・骨格診断など有料サービスが無料で受けられる ・疲れにくい運動・疲れをとる効果のある運動を生み出す

● 具体的な企画案

- ✓ 取り組みに参加しない人が参加したくなるアイデアをもとに、具体的な企画コンセプトを作成した。

表 10 健康意識が高くない人が参加したくなる企画

ジャンル	企画タイトル	内容	ターゲット
美容	モデルウォーク	モデルウォークを体験(姿勢がよくなる・きれいに見える)	女性
イベント	甲子園球場で野球をやろう!	甲子園球場で野球をします。家族、友人の参加OK。優勝チームには景品も用意。	職場のスタッフ、仕入れ先、得意先
食との組合せ	あこがれの人と一緒に料理教室 食と健康について考えてみませんか	有名人と一緒に健康に特化した料理を作る。お客様から公募もして一緒に楽しく。 食育SATシステム(食品モデル)にて、一日の食生活のバランスを考えて健康意識を高めていただく	社員、アルバイト、お客様
ダンス	ダンスせざるをえないやん	CSR活動で子供(学校)と一緒にW.S.(ダンス)を行う。+ 自社ブランディング、社印のマインド向上、ユーザー理解につなげる。	店員、特にBtoBの社員(市場と触れ合うことがない)
ストレッチ・コンディショニング	リラックス・エクササイズ・スクエア 音×ストレッチ♪	心身の疲れが取れ、体調を整えやる気がわいてくるワークを無理なく続けられるプログラム リズムに合わせてストレッチ。かんたんなゲーム。	中高年社員、不規則でハードワークの職場の社員+外部 部課長もまきこみたい。いつも”運動”に疎い人
ゆるスポーツ	ゆるスポーツ・おもしろスポーツ	やわらかいボールや身近な生活用品を使ってスポーツを行う(あえて半強制で)。上手下手、運動神経の関係ないもの	引っ込み思案、恥ずかしがり屋の社員
	つかれない運動	ヨガ、太極拳、ストレッチ等、はげしくなく、つかれない運動を組合せ、チョイスして行う	運動したくない人、汗かきたくない人
	スポーツ鬼ごっこ&BBQ	ファミリーで参加、スポーツ鬼ごっこをしてBBQ	30~40歳代健康無関心層の男女、家庭を持っている方
モノ	神戸SNSファッションショー	健康意識以上にウェア等に興味がある人に、最新のウェアやシューズを提供し、街をランニングやウォーキングしてもらい、SNSにアップしてもらう	20~40歳代のおしゃれに関心のある人
実施方法	月1回スポーツデイ	月1回平日の定時を早めて、従業員みんなで様々な運動を行う	普段運動しない人もそうでない人も
	運動をして健康に、そして素敵な彼氏・彼女を作ろう!	男女ペア、もしくはグループでできるスポーツ。自社だけでなく、他社と合同で。出会いを前面に押し出せば若い子が参加するのでは。	若手の独身の男性・女性
日常	バランスボールの活用	会議室の椅子をバランスボールに変更する	社員向け

3) 企業ヒアリング結果

エコシステムの利用者およびコンテンツ・施設の提供者として、以下の企業にヒアリングを行い、健康経営への取り組みに関する現状・課題・スポーツエコシステムの利用と協力の可能性について調査を行った。

これらの結果から、健康経営への関心のタイプとしては、今後企業として健康経営を行うための情報収集段階である企業、健康経営をすでに導入しているものの今後何を行うべきか検討段階にある企業、健康経営コンテンツを持っているため、健康経営のビジネスチャンスを検討している企業等意識の差があることが明らかになった。

また、企業として健康・運動教室向けの予算を持っている者は1社にとどまり、企業が主体的に指導者に対する依頼を行うことは、現時点では難しいことが分かった。

表 11 ヒアリング実施団体一覧（利用者に関する調査）

	企業・団体名
1	企業 C
2	企業 D
3	企業 E
4	企業 F
5	企業 G
6	企業 H
7	国立研究開発法人理化学研究所
8	企業 I
9	企業 J

出典) NTT データ経営研究所作成

a. 企業 C ヒアリング結果

企業ではなく従業員が主体となってスポーツのサークル等を実施している。指導者選びや参加者集めも従業員が自主的に行い、企業が補助を出している。そのため、従業員が指導者を検討する検討材料のひとつとしてエコシステムを利用する可能性はある。

場所の提供については、社外の人自由に入出りできる場所がないため、提供を行うことは難しい。指導者の提供についても、神戸に在勤している指導者がいないため、提供することは難しい。

b. 企業 D ヒアリング結果

健康経営に関する取組としては、福利厚生の一環で健診費用を負担するなどの施策を実施しているが、健康・運動教室の実施までは今のところ考えていない。職種が多岐にわたるため、同じ場所、時間に集うことが難しいほか、抱えている課題も異なることが想定されるためである。

当社（企業 D）は健康に関する検定事業の運営を行っている。健康経営部会に参画している企業の従業員に対して検定を周知させていきたい。

c. 企業 E ヒアリング結果

当社（企業 E）には健康経営に関する予算、社外に提供できるコンテンツや場所がない。そのため、特に「働き方改革」「職場環境整備」をキーワードとして健康経営部会を通じて情報を収集している段階である。今までに健康経営などを行ったことがないため、担当者が社内で決裁をとるために健康経営に関する資料が必要となっている。

自社従業員限れば、社内にイベントを実施するスペースがある。

d. 企業 F ヒアリング結果

当社（企業 F）では健康経営に関する予算は確保しているものの、運動ではなく福利厚生の一環として「がん検診」等の健診受診料を会社が負担するなどにとどまっている。運動等への取り組みには関心があるが、健康効果のエビデンスがないため実施しにくいという認識である。

一般の顧客に向けてウォーキングイベントを開催しているため、他の企業の従業員にも同様のコンテンツを提供できる。地域活性が将来的な自社の利益につながるため、参加費は無料である。指導者が利益を得る有料イベントを実施する予定はないが、実施不可能ではない。

e. 企業 G ヒアリング結果

当社（企業 G）は 20 年前から従業員に対して運動教室（ヨガ）を開催するなど運動機会を提供している。また、栄養、睡眠、禁煙、女性の健康等の学びの機会を会社の予算で提供している。ヨガ教室については、講師と契約して実施しており、日時の都合より契約を変更する予定であるが、各指導者（団体・個人）から提示されるコンテンツのうち、何を根拠にどのコンテンツを選択すべきか迷っている。試しに教室を実施できるような機会があればよい。

運動のほか、睡眠分野に関心があるが、工場等に勤務する従業員に向けて、従業員の現状を把握した上で企画しなければならないと考えている。時間制勤務のため日々の睡眠のリズムが一定でない人たちがどのように睡眠を取れば良いのかに焦点をあてたい。

また、社外に提供できるコンテンツ、場所はない。

f. 企業 H ヒアリング結果

熱中症対策、食育、女性の健康についてコンテンツを持っている。熱中症、女性の健康については、社外にも提供可能である。食育については一律のコンテンツを提供しているのではなく、状況に応じて社内で検討した上で提供しているため、都度検討が必要である。

g. 国立研究開発法人理化学研究所ヒアリング結果

研究機関のため、研究に使用できるデータを取得できるのであれば、測定などのイベント実施等が可能である。

現在も JST（科学技術振興機構）からの受託事業として「健康生き活き羅針盤リサーチコンプレックス推進プログラム」に取り組んでおり、2020 年までに 1 万人のデータを収集し、未病

指数の開発を目指している。

h. 企業 I ヒアリング結果

卓球場を運営している。全 20 教室中の 15 教室が外部の個人・団体の実施する卓球教室、5 教室が自社の企画・実施する卓球教室である。

施設全体として平日の夕方 18 時以降の利用が少ないため、企業従業員に終業後に場所を活用してもらうことで、卓球場が活性化することを期待する。平面のスペースが 2 面ほど確保できるため、健康体操やヨガ等のコンテンツを行う場所としても活用できる可能性がある。

i. 企業 J ヒアリング結果

ゴルフ練習場を運営している。プロ指導者 2 名と契約の上で教室を開催しているほか、初心者向けであればスタッフが講師として指導する場合がある。現在、練習場の稼働率が 20～40%のため、マッチングにより稼働率を上げたい。

4) 企業アンケート結果

企業のニーズと提供可能なコンテンツの現状を把握するため、健康創造都市 KOBE 推進会議健康経営部会の参画企業・団体に対し、アンケート調査を行った。

調査の結果、健康経営に関する予算の確保について各企業の状況は様々であるものの、自社従業員への情報の周知であれば参加可能であることが分かった。また、企業によっては自社従業員や他社従業員に向けて場所の提供を検討することができることが分かった。

表 12 企業事前アンケート実施概要

調査名	健康経営部会参加企業様における スポーツ・健康スキル及び教室の募集・本事業への参加形態調査
目的	企業・団体から提供可能なコンテンツと、エコシステム実施要への参加見込みを把握する。
実施期間	2018年11月6日(火)～11月13日(火)
アンケート調査法	電子ファイルによる調査票
対象者	健康創造都市 KOBE 推進会議健康経営部会 会員企業・団体
実施手法	神戸市の協力を経て、健康創造都市 KOBE 推進会議健康経営部会参画企業・団体にメール送付
有効回答数	16

- 従業員に対し、情報周知が可能な企業は 81.3%、自社向けの教室開催にあたり場所の提供を検討することが可能、また他の企業に対してコンテンツを提供することが可能な企業がそれぞれ 50.0%であった。

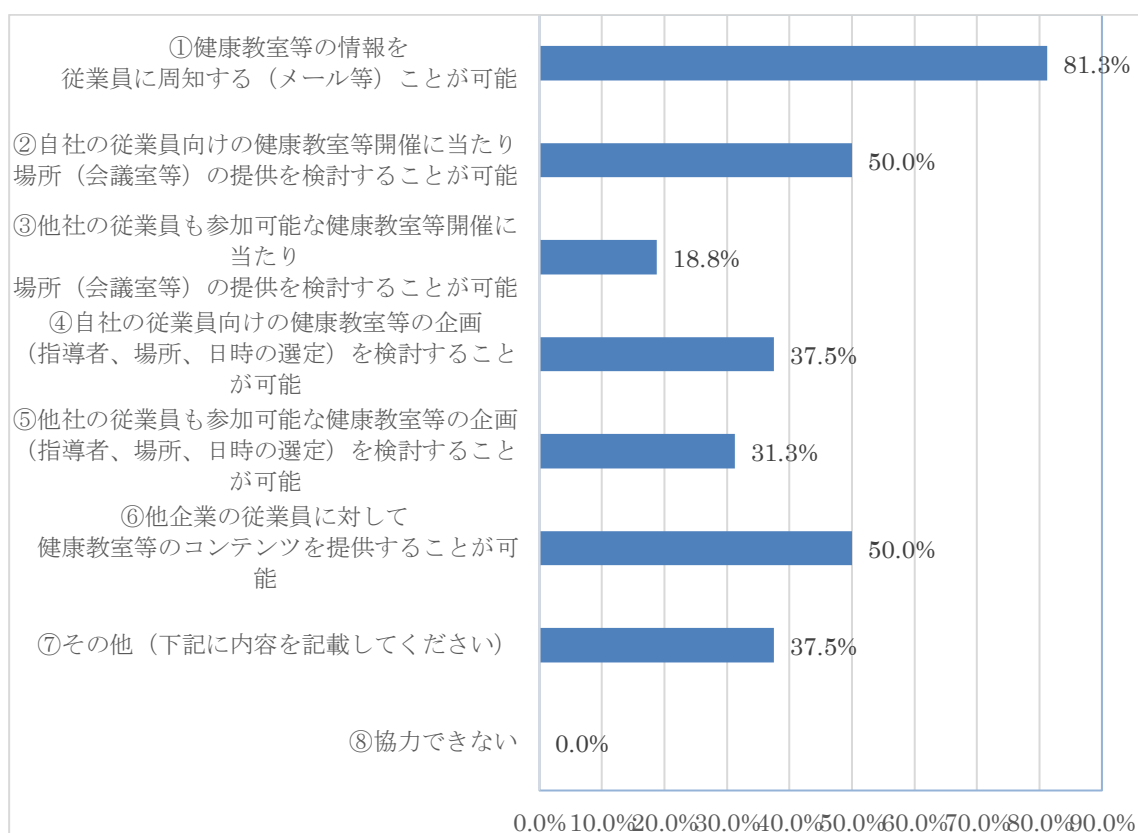


図 8 企業アンケート：協力可能な内容

- 企業が健康経営に関する教室を実施するにあたり、個別のヒアリング等を通じたマッチングを希望するかについて、希望すると回答した企業は 25.0%、わからないと回答した企業が 50.0%であった。

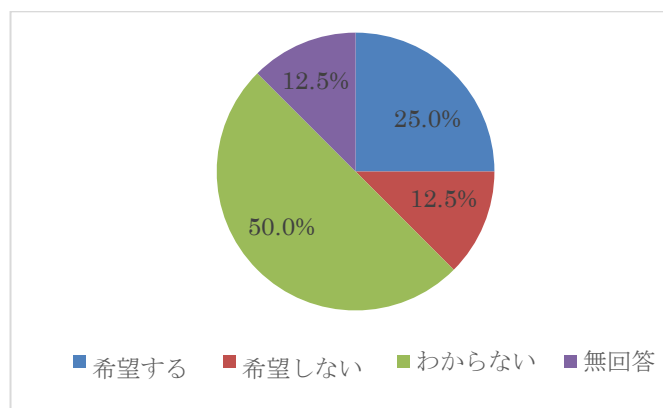


図 9 企業アンケート：個別のコーディネーターに対する希望

- 健康経営に関する予算について、今年度執行できる予算が「ある」と回答したのは 31.3%、「ない」と回答したのは 43.8%であった。また、来年度以降に予算を確保する見通しについて、「確保した」また「概ね予定している」と回答したのが 25.0%、「検討中」が 25.0%、「予定なし」が 25.0%と、各企業によって状況が様々であることがわかった。

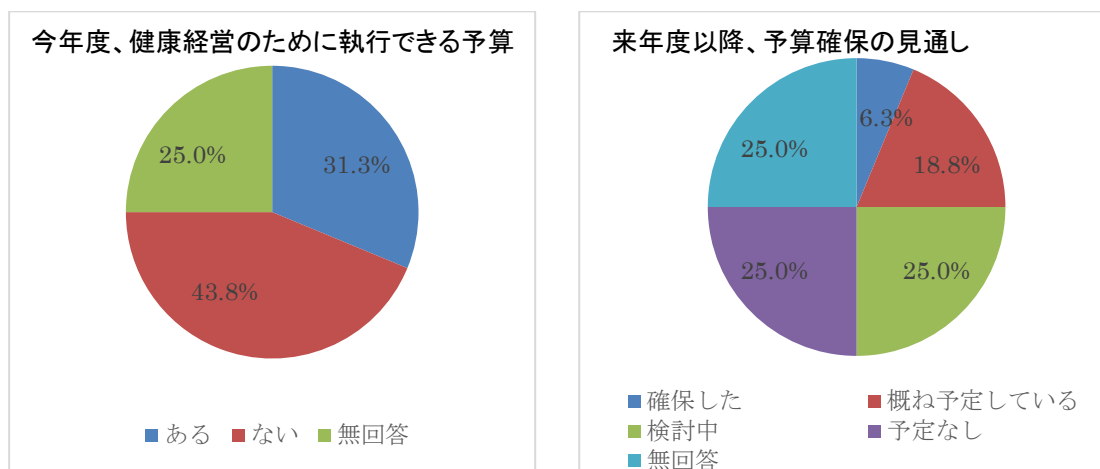


図 10 企業アンケート：健康経営のために執行できる予算

5) 企業従業員アンケート結果

神戸市から健康創造都市 KOBE 推進会議健康経営部会の会員企業に対し依頼を行い、企業従業員向けのアンケート調査を行った。企業の従業員の運動不足に対する意識は強く、職場等を拠点とした運動・スポーツを促進する取組に期待する意見が多く得られた。

表 13 企業従業員事前アンケート実施概要

調査名	(企業の従業員様向け) 運動・スポーツの意識に関するアンケート
目的	企業の従業員の運動・スポーツに対する意識やニーズを把握し、今後運動指導者が実施する教室・プログラムの参考にする。
実施期間	2018年9月14日～9月28日
アンケート調査法	WEB アンケート
対象者	健康創造都市 KOBE 推進会議健康経営部会 会員企業従業員
実施手法	健康創造都市 KOBE 推進会議健康経営部会の協力を得て、会員企業から従業員にメール送付
有効回答数	433

● 属性

①回答者の年齢・性別

回答者は男性が約 3/4 を占めており、年齢では 40～50 代が多かった。

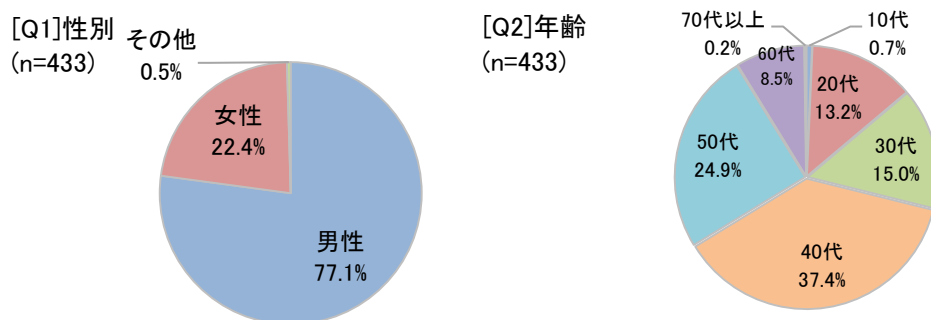


図 11 企業従業員事前アンケート：回答者の年齢・性別

表 14 企業従業員事前アンケート：回答者の年齢・性別

		全体 (n)	Q2 年齢(%)						
			10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上
全体		433	0.7	13.2	15.0	37.4	24.9	8.5	0.2
Q1 性別	男性	334	0.3	11.1	12.9	39.5	26.3	9.9	0.0
	女性	97	2.1	20.6	22.7	29.9	20.6	4.1	0.0
	その他	2	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	50.0

②職種

回答者の職種は高度な知識・技術を必要とする「専門・技術職」と、事務職などが多かった。

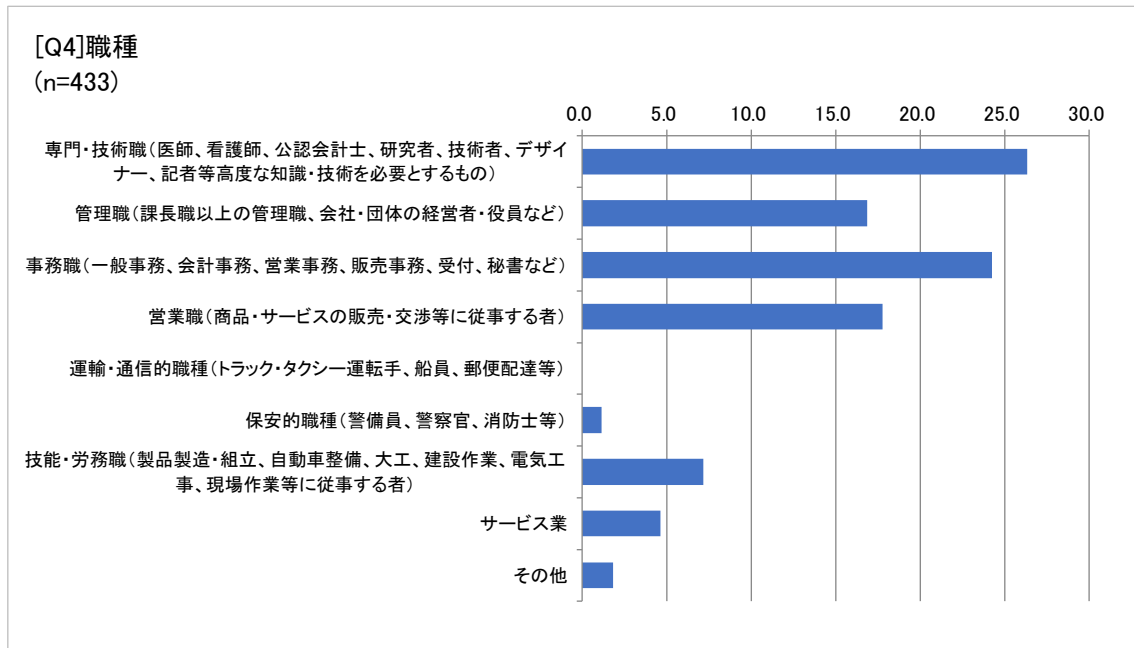


図 12 企業従業員事前アンケート：職種

③家族構成 (同居している人)

家族構成では配偶者、子供と同居している回答者が多かった。

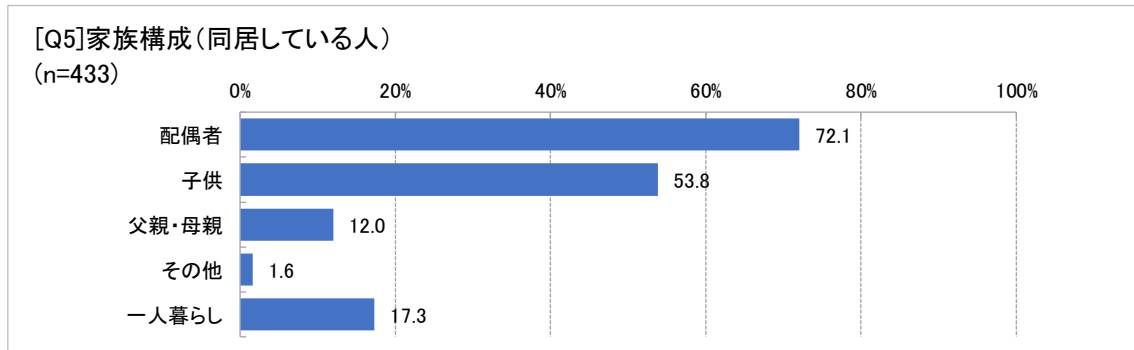


図 13 企業従業員事前アンケート：家族構成

- 運動不足を感じているのは全体の 8 割以上であり、女性では 9 割以上が運動不足を感じている。年齢では 30 代が運動不足を感じている割合が高い。

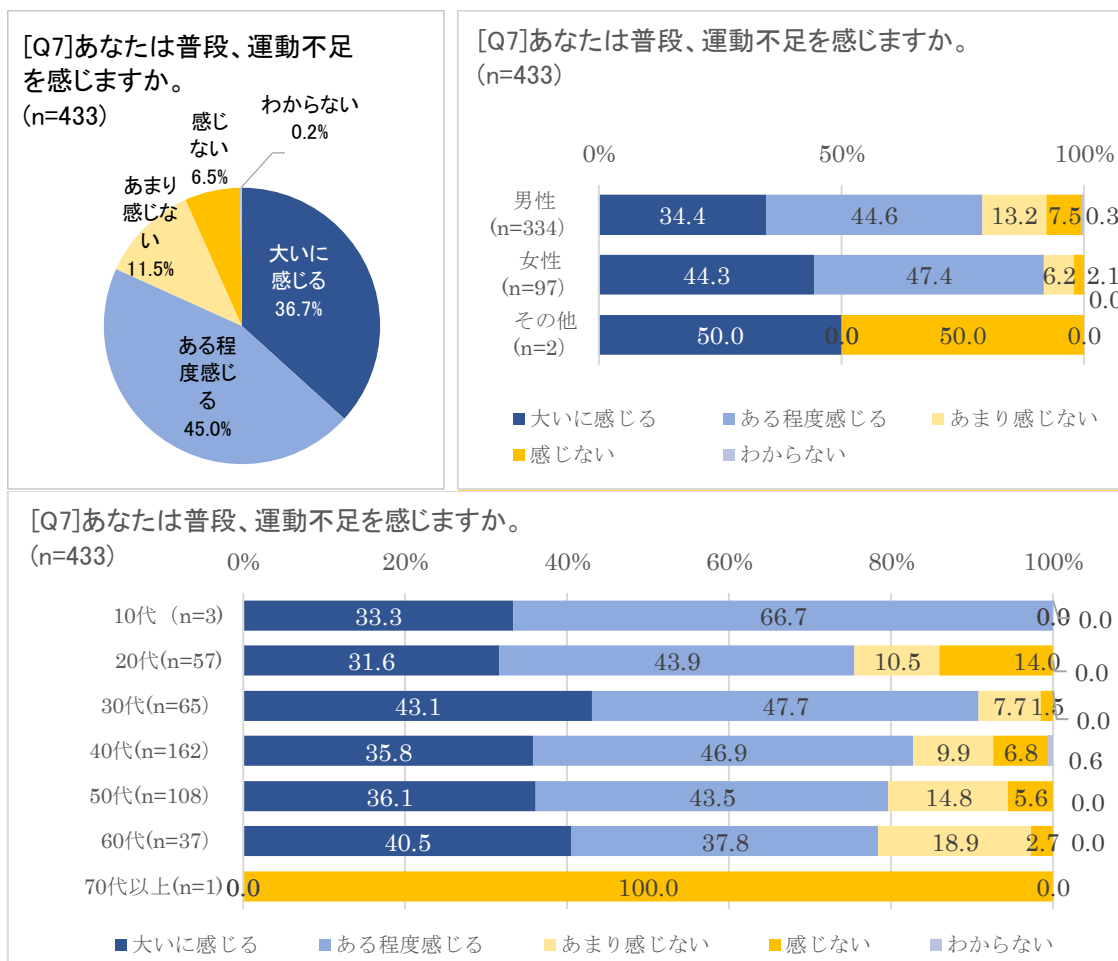


図 14 企業従業員事前アンケート：運動不足の状況

表 15 企業従業員事前アンケート：運動不足の状況

【表側1】Q1 性別 【表側2】Q2 年齢		全体 (n)	Q7 あなたは普段、運動不足を感じますか。(%)				
			大いに感じる	ある程度感じる	あまり感じない	感じない	わからない
全体		433	36.7	45.0	11.5	6.5	0.2
男性	10代	1	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0
	20代	37	24.3	40.5	13.5	21.6	0.0
	30代	43	39.5	46.5	11.6	2.3	0.0
	40代	132	34.1	47.7	10.6	6.8	0.8
	50代	88	36.4	40.9	15.9	6.8	0.0
	60代	33	36.4	42.4	18.2	3.0	0.0
	70代以上	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
女性	10代	2	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0
	20代	20	45.0	50.0	5.0	0.0	0.0
	30代	22	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0
	40代	29	41.4	44.8	6.9	6.9	0.0
	50代	20	35.0	55.0	10.0	0.0	0.0
	60代	4	75.0	0.0	25.0	0.0	0.0
	70代以上	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
その他	10代	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	20代	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	30代	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	40代	1	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	50代	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	60代	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	70代以上	1	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0

		全体 (n)	Q7 あなたは普段、運動不足を感じますか。(%)				
			大いに感じる	ある程度感じる	あまり感じない	感じない	わからない
全体		433	36.7	45.0	11.5	6.5	0.2
Q4 職種	専門・技術職(医師、看護師、公認会計士、研究者、技術者、デザイナー、記者等高度な知識・技術を必要とするもの)	114	35.1	46.5	10.5	7.0	0.9
	管理職(課長職以上の管理職、会社・団体の経営者・役員など)	73	39.7	39.7	12.3	8.2	0.0
	事務職(一般事務、会計事務、営業事務、販売事務、受付、秘書など)	105	39.0	43.8	11.4	5.7	0.0
	営業職(商品・サービスの販売・交渉等に従事する者)	77	32.5	49.4	11.7	6.5	0.0
	運輸・通信的職種(トラック・タクシー運転手、船員、郵便配達等)	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	保安的職種(警備員、警察官、消防士等)	5	60.0	40.0	0.0	0.0	0.0
	技能・労務職(製品製造・組立、自動車整備、大工、建設作業、電気工事、現場作業等に従事する者)	31	35.5	48.4	6.5	9.7	0.0
	サービス業	20	40.0	40.0	20.0	0.0	0.0
	その他	8	25.0	50.0	25.0	0.0	0.0
	Q5 家族構成 (同居している人)	配偶者	312	35.6	46.2	12.8	5.1
子供		233	35.2	49.8	11.6	3.0	0.4
父親・母親		52	36.5	50.0	5.8	7.7	0.0
その他		7	71.4	14.3	0.0	14.3	0.0
一人暮らし		75	41.3	38.7	9.3	10.7	0.0

- 健康状態については、「健康である」、「どちらかといえば健康である」との回答が 8 割以上であった。また、運動不足を感じていない人ほど「健康である」の回答割合が高い傾向が見られた。「どちらかといえば健康でない」や「健康でない」の回答者は運動不足の傾向がみられるが、これは健康でないから運動ができない可能性もあることの考慮が必要である。

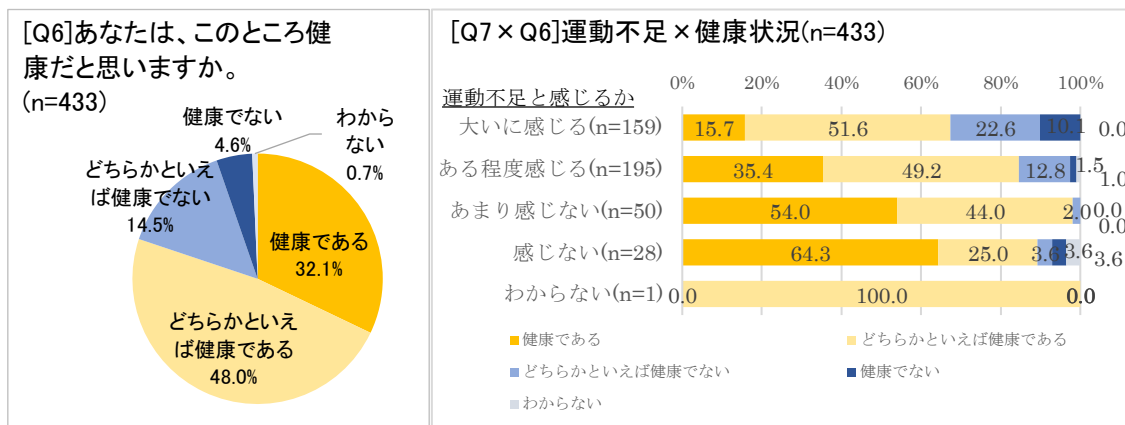


図 15 企業従業員事前アンケート：健康状況

表 16 企業従業員事前アンケート：健康状況

		Q6 あなたは、このところ健康だと思いますか。(%)					
		全体 (n)	健康である	どちらかといえ ば健康である	どちらかといえ ば健康でない	健康でない	わからない
全体		433	32.1	48.0	14.5	4.6	0.7
Q1 性別	男性	334	34.4	46.7	14.4	4.2	0.3
	女性	97	24.7	53.6	14.4	6.2	1.0
	その他	2	0.0	0.0	50.0	0.0	50.0
Q2 年齢	10代	3	0.0	33.3	66.7	0.0	0.0
	20代	57	42.1	33.3	17.5	7.0	0.0
	30代	65	26.2	53.8	16.9	3.1	0.0
	40代	162	32.1	51.9	12.3	3.1	0.6
	50代	108	31.5	43.5	16.7	7.4	0.9
	60代	37	32.4	59.5	5.4	2.7	0.0
	70代以上	1	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
Q5 家族構 成(同居し ている人)	配偶者	312	34.9	48.7	11.5	4.5	0.3
	子供	233	33.9	49.8	12.0	3.9	0.4
	父親・母親	52	28.8	40.4	25.0	3.8	1.9
	その他	7	0.0	71.4	28.6	0.0	0.0
	一人暮らし	75	25.3	46.7	21.3	5.3	1.3

- 週1日以上運動・スポーツをする者の割合は、58.4%であり、スポーツ庁が実施している「スポーツの実施状況等に関する世論調査（平成29年度）」では割合が51.8%であることと比較すると、全国平均よりは高い割合で実施していることが分かった。

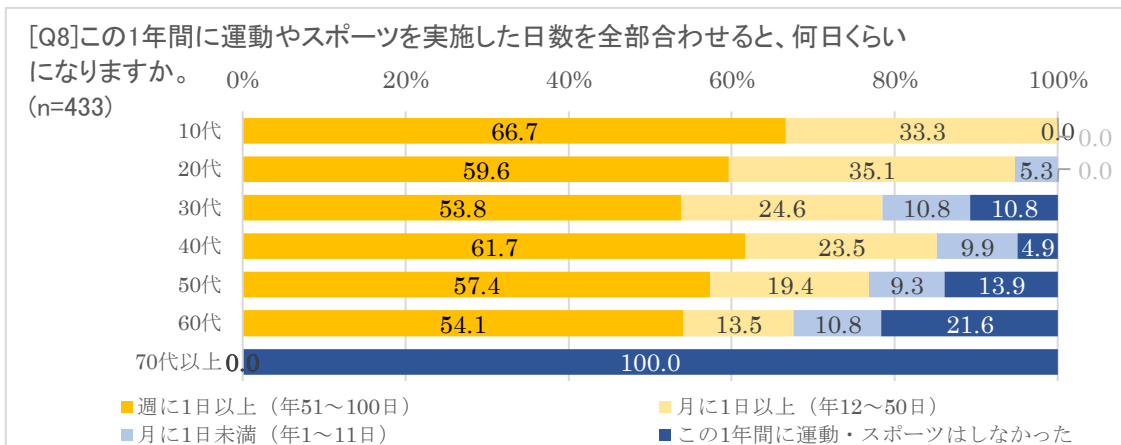
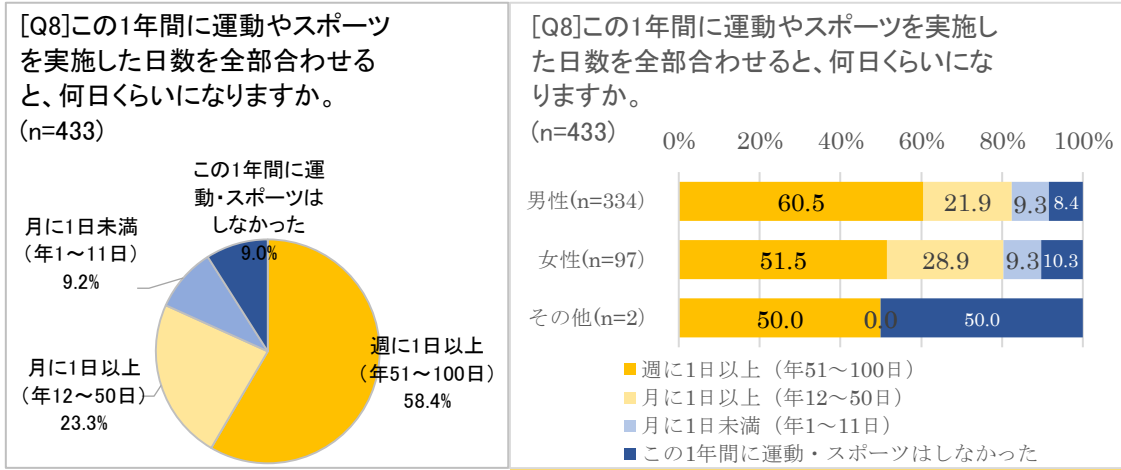


図 16 企業従業員事前アンケート：運動・スポーツ実施状況

表 17 企業従業員事前アンケート：運動・スポーツ実施状況

		Q8 この1年間に運動やスポーツを実施した日数を全部合わせると、何日くらいになりますか。				
		全体 (n)	週に1日以上(年 51~100日)	月に1日以上(年 12~50日)	月に1日未満(年1 ~11日)	この1年間に運 動・スポーツはし なかった
全体		433	58.4	23.3	9.2	9.0
Q5 家族構成 (同居している人)	配偶者	312	60.9	21.5	9.3	8.3
	子供	233	61.4	19.7	10.3	8.6
	父親・母親	52	57.7	19.2	11.5	11.5
	その他	7	57.1	28.6	0.0	14.3
Q6 あなたは、このところ健康だと思いますか。	一人暮らし	75	46.7	30.7	9.3	13.3
	健康である	139	69.1	19.4	5.8	5.8
	どちらかといえば健康である	208	55.3	26.0	10.1	8.7
	どちらかといえば健康でない	63	50.8	25.4	11.1	12.7
Q7 あなたは普段、運動不足を感じますか。	健康でない	20	40.0	20.0	20.0	20.0
	わからない	3	66.7	0.0	0.0	33.3
	大いに感じる	159	31.4	28.9	20.1	19.5
	ある程度感じる	195	66.7	26.2	4.1	3.1
Q7 あなたは普段、運動不足を感じますか。	あまり感じない	50	90.0	8.0	0.0	2.0
	感じない	28	96.4	0.0	0.0	3.6
	わからない	1	100.0	0.0	0.0	0.0

- 職場等を拠点とした運動・スポーツを促進する取組があれば、今より運動・スポーツを実施する頻度が「大いに増えると思う」「ある程度増えると思う」は64.9%であった。運動不足を「大いに感じている」「ある程度感じる」人では「あまり増えるとは思わない」「まったく増えるとは思わない」の割合も高かったが、これはそもそも運動嫌いであるため運動をする意思がない、体調面から運動ができないなどの理由があるものと考えられる。一方で、職場等を拠点とした運動・スポーツの機会の提供があれば、運動不足である人たちの6割程度の運動頻度が高まる可能性があることが分かった。

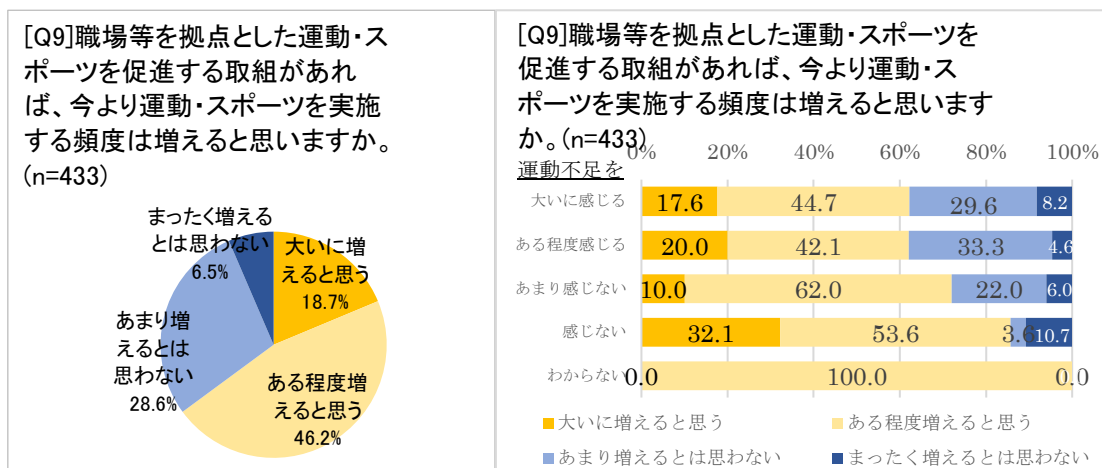


図 17 企業従業員事前アンケート：職場等を拠点とした運動・スポーツを促進する取組

表 18 企業従業員事前アンケート：職場等を拠点とした運動・スポーツを促進する取組

		Q9 職場等を拠点とした運動・スポーツを促進する取組があれば、今より運動・スポーツを実施する頻度は増えると思いますか。(%)				
		全体 (n)	大いに増えると思 う	ある程度増え ると思う	あまり増えると思 は思わない	まったく増える とは思わない
全体		433	18.7	46.2	28.6	6.5
Q1 性別	男性	334	19.8	46.1	27.5	6.6
	女性	97	15.5	47.4	32.0	5.2
	その他	2	0.0	0.0	50.0	50.0
Q2 年齢	10代	3	33.3	0.0	66.7	0.0
	20代	57	21.1	43.9	21.1	14.0
	30代	65	18.5	46.2	26.2	9.2
	40代	162	17.9	43.8	33.3	4.9
	50代	108	16.7	50.0	28.7	4.6
	60代	37	24.3	54.1	21.6	0.0
	70代以上	1	0.0	0.0	0.0	100.0

- 会社が社員向けに開催したときに参加してみたい企画としては、「体調改善」が約半数の46.7%、次いで「スポーツ指導」が27.3%、「測定」が24.0%、「美容」が23.3%であった。

男女ともに最も参加したいものは「体調改善」であったが、2番目は男性は「スポーツ指導」であったのに対し、女性は「美容」であった。

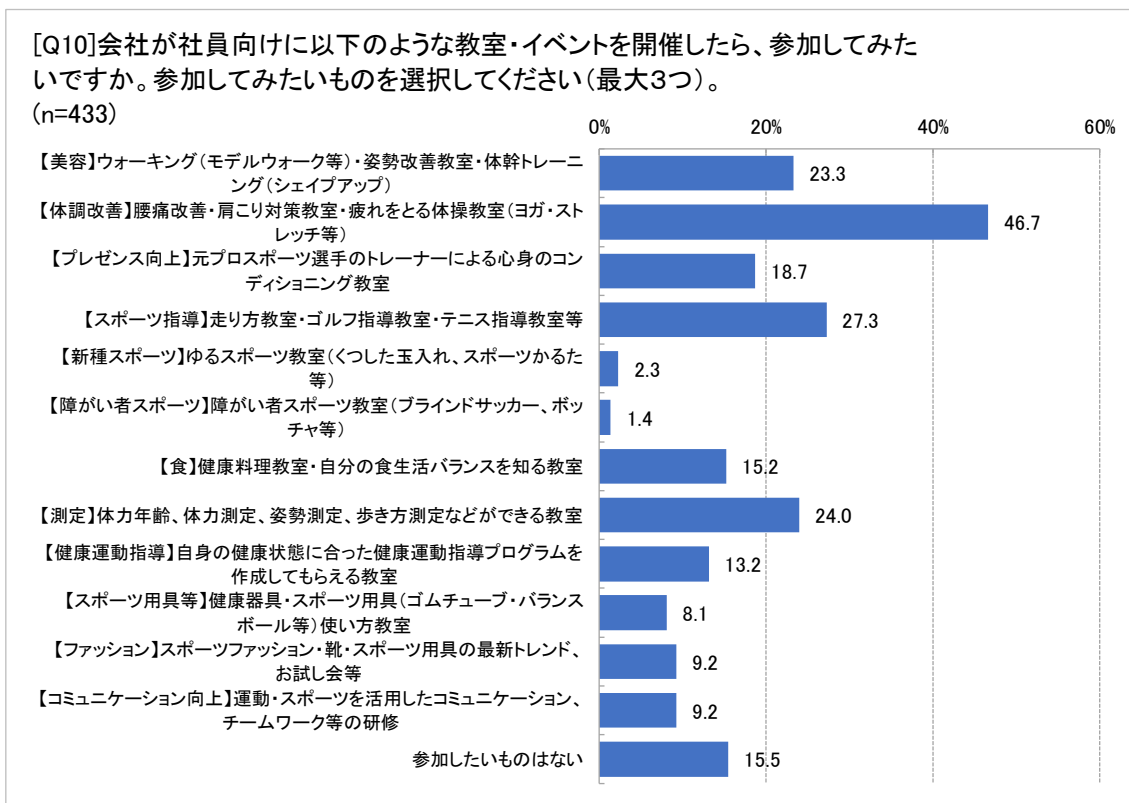


図 18 企業従業員事前アンケート：会社が企画したら参加してみたい教室・イベント

表 19 企業従業員事前アンケート：会社が企画したら参加してみたい教室・イベント

		Q10 会社が社員向けに以下のような教室・イベントを開催したら、参加してみたいですか。参加してみたいものを選択してください(最大3つ)。(%)													
		全体	【美容】	【体調改善】	【プレゼンス向上】	【スポーツ指導】	【新種スポーツ】	【障がい者スポーツ】	【食】	【測定】	【健康運動指導】	【スポーツ用具等】	【ファッション】	【コミュニケーション向上】	参加したいものはない
		(n)													
全体		433	23.3	46.7	18.7	27.3	2.3	1.4	15.2	24.0	13.2	8.1	9.2	9.2	15.5
Q1 性別	男性	334	16.5	40.7	18.6	31.1	1.8	1.2	14.1	23.1	12.3	9.3	11.1	10.2	17.4
	女性	97	47.4	68.0	18.6	14.4	4.1	2.1	19.6	27.8	16.5	4.1	3.1	6.2	8.2
	その他	2	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0
Q2 年齢	10代	3	66.7	66.7	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	33.3
	20代	57	17.5	42.1	21.1	22.8	3.5	1.8	14.0	21.1	12.3	1.8	12.3	19.3	
	30代	65	21.5	43.1	24.6	23.1	6.2	1.5	21.5	24.6	10.8	4.6	9.2	12.3	
	40代	162	18.5	45.1	21.0	30.2	1.9	1.9	15.4	24.1	16.0	8.6	11.1	9.9	
	50代	108	30.6	54.6	13.9	29.6	0.9	0.9	10.2	23.1	8.3	10.2	9.3	3.7	
	60代	37	32.4	43.2	8.1	24.3	0.0	0.0	21.6	32.4	18.9	0.0	13.5	13.5	
	70代以上	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
Q5 家族構成(同居している人)	配偶者	312	21.8	46.2	18.9	30.8	1.3	0.6	15.1	25.0	13.8	9.0	10.3	9.0	
	子供	233	19.7	42.1	19.7	32.2	1.7	0.9	11.6	25.8	14.6	8.2	10.3	9.4	
	父親・母親	52	25.0	51.9	15.4	21.2	3.8	1.9	13.5	21.2	13.5	3.8	9.6	11.5	
	その他	7	42.9	42.9	28.6	0.0	14.3	14.3	42.9	14.3	14.3	0.0	0.0	0.0	
Q6 あなたは、このところ健康だと思いますか。	健康である	139	22.3	40.3	25.9	34.5	1.4	0.7	13.7	23.0	10.1	7.9	12.9	10.1	
	どちらかといえば健康である	208	24.0	51.0	15.9	25.5	1.9	2.4	17.3	26.9	14.4	9.1	7.7	11.1	
	どちらかといえば健康でない	63	20.6	44.4	14.3	23.8	4.8	0.0	7.9	19.0	15.9	7.9	7.9	3.2	
Q7 あなたは普段、運動不足を感じますか。	健康でない	20	35.0	55.0	10.0	5.0	5.0	0.0	30.0	20.0	15.0	0.0	5.0	5.0	
	わからない	3	0.0	33.3	33.3	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	大いに感じる	159	24.5	52.2	11.9	23.3	4.4	0.6	16.4	18.9	15.7	7.5	6.9	8.8	
Q7 あなたは普段、運動不足を感じますか。	ある程度感じる	195	25.6	45.6	20.5	26.2	1.5	1.5	12.8	26.7	13.3	9.7	6.2	8.7	
	あまり感じない	50	16.0	44.0	24.0	40.0	0.0	2.0	20.0	28.0	10.0	4.0	20.0	12.0	
	感じない	28	14.3	28.6	35.7	35.7	0.0	3.6	17.9	28.6	3.6	3.6	21.4	7.1	
	わからない	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	100.0	100.0	

- 「体調改善教室」で最も開催が望まれている時間帯は「平日就業時間直後」であり、「職場内の空きスペース」での開催希望が多かった。1回当たりの最大支払い可能金額は「1000円未満」が最も多いが、「1000円以上」34.7%いた。参加希望頻度は週1回程度が最も多く、継続的な参加を希望する傾向が見られた。

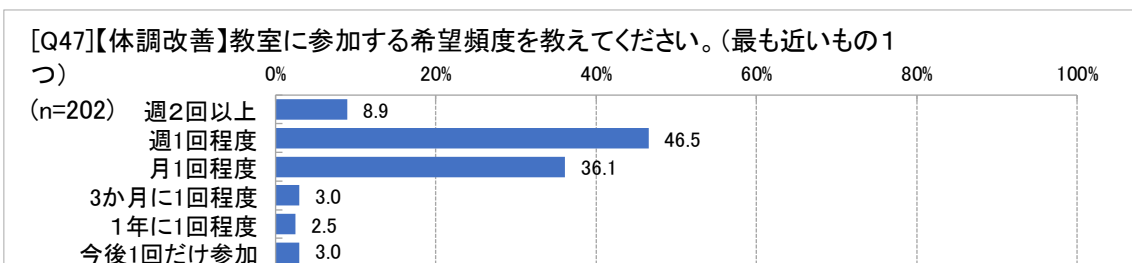
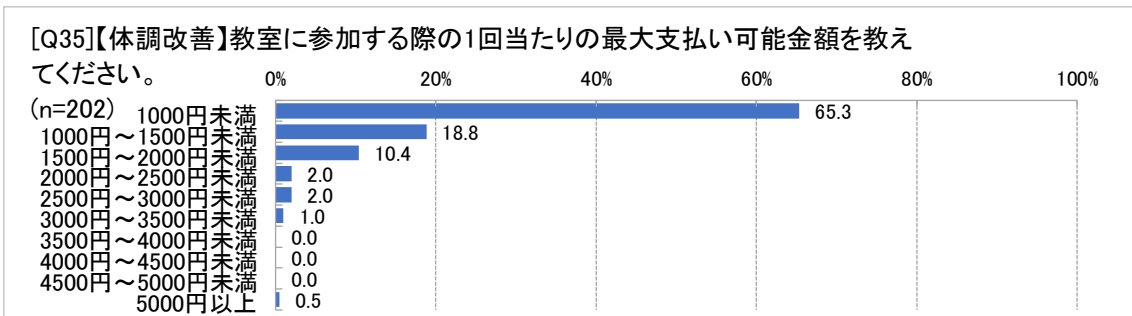
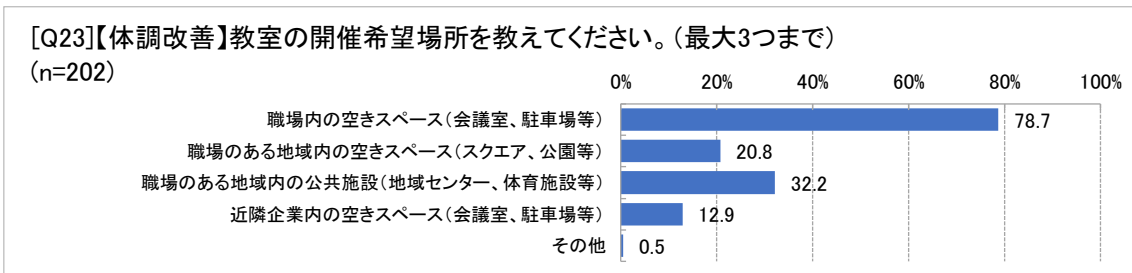
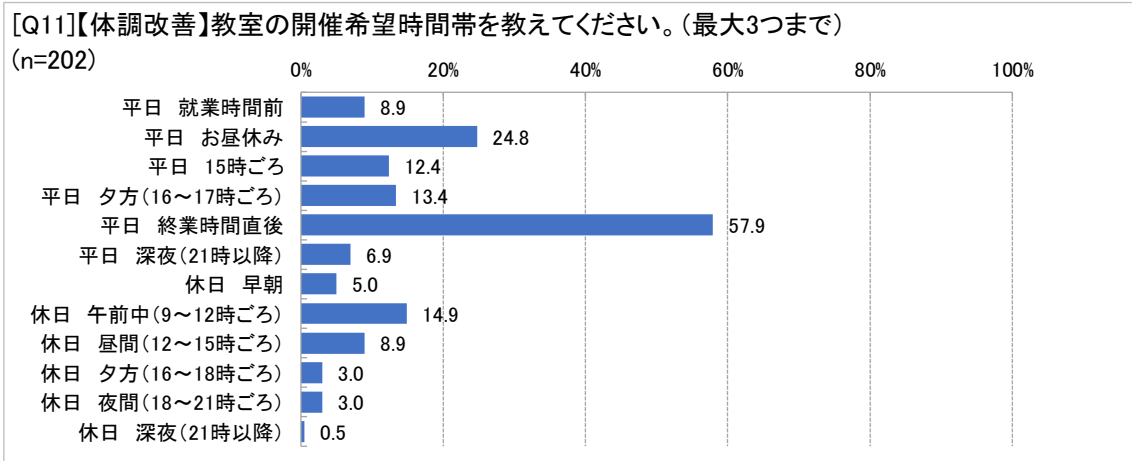


図 19 企業従業員アンケート：教室開催に期待する条件（例：体調改善教室）

3.1.2 エコシステムモデル構築

(1) エコシステムの仕組みの設定（全体像）

エコシステムが回っていくためには、活用の起点となる主体が誰なのかという検討が必要である。起点となるのは、指導者または企業であるが、指導者が起点になる場合も民間施設のなかでも「企業外施設」を予約する場合と、「企業内会議室等」を使用する場合でパターンが分かれる。よって、以下のような3パターンのモデルで検討を行った。

1) 指導者が企業外施設にて教室開催

まず1つ目に想定されるのが、指導者がスペースマーケット等を活用して企業外施設を予約し、イベント（教室）を開催するモデルである。イベント情報は健康創造都市 KOBE 推進会議を通じて企業とその従業員へ告知する。

指導者は企業との連携により、これまで告知の届かなかった層へ情報を届けることができる。これにより、出勤前、昼休み等、通常では集客しづらい時間に教室を実施できるようになることが期待できる。

また、企業は健康教室の企画をしたり、費用を負担したりすることなく従業員向けの教室開催を行うことができる。企業にとっては、社員の健康増進機会の提供、コミュニケーション機会の提供、健康経営の取り組みの推進につながる。

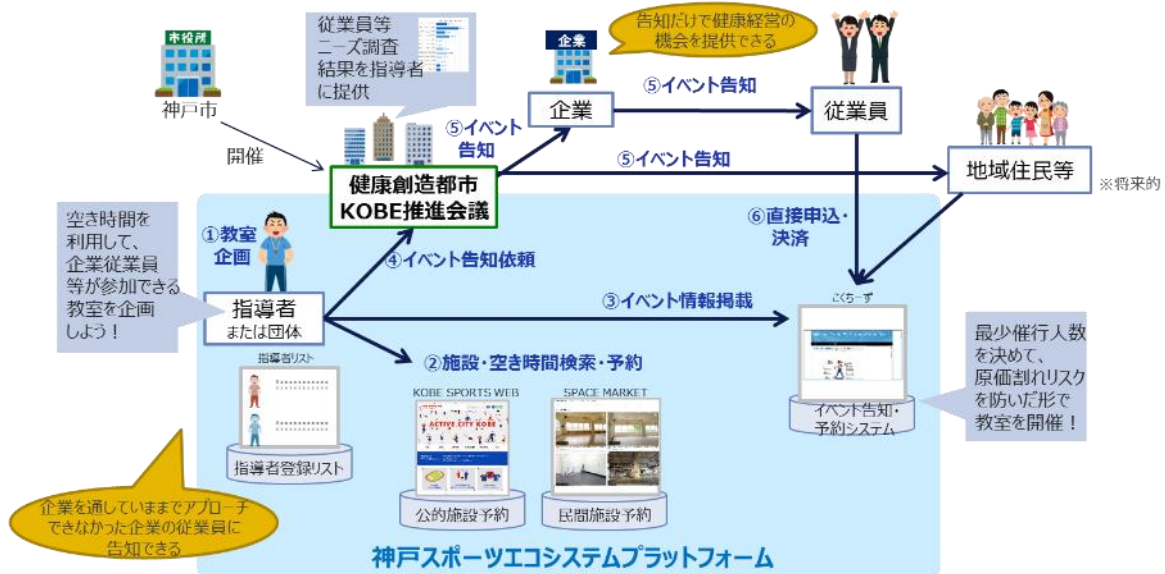


図 20 エコシステム①指導者が企業外施設等にて教室開催

2) 指導者が企業内会議室等にて教室開催

2つ目に想定されるのが、指導者が企業の会議室等空きスペースを使って、イベント（教室）を開催するモデルである。企業の従業員向けに教室開催する場合には、イベント情報は企業からその従業員へ告知するが、他の企業からの参加者も募る場合には、健康創造都市 KOBE 推進会議を通じて他社、及びその従業員へも告知する。

指導者は企業との連携により、これまで告知の届かなかった層へ情報を届けることができる。これにより、出勤前、昼休み等、通常では集客しづらい時間に教室を実施できるようになることが期待できることに加え、企業従業員のごく参加しやすい場所で教室を開催することができ、参加者増が見込めるとともに、場所を確保する費用がかからないことがメリットとなる。

また、企業は健康教室の企画をしたり、費用を負担したりすることなく、空いている会議室等のスペースを提供するだけで、従業員向けの教室開催を行うことができる。企業にとっては、社員の健康増進機会の提供、コミュニケーション機会の提供、健康経営の取り組みの推進につながる。

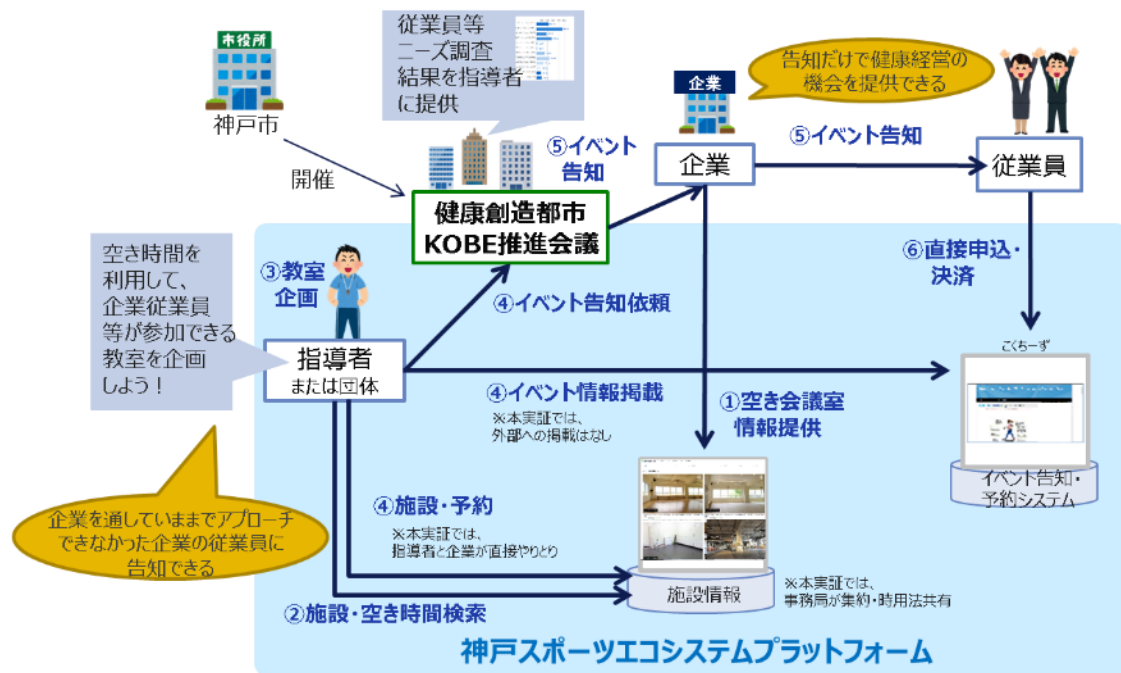


図 21 エコシステム②指導者が企業内会議室等で教室開催

3) 企業がコーディネーターの支援、または、プログラムリストから指導者を指名して開催する教室

3つ目に、健康運動教室等を開催したい企業が主体となって、イベント（教室）開催を行うモデルを想定した。指導者が提供できるコンテンツの情報を企業に提示しておくことにより、企業が教室を開催したいときに、指導者にオファーを出すことができる。企業が予算を持ち健康教室を実施しようとしている場合に、独自に情報収集をする負担を減らすことを目的としている。

ただし、教室開催の予算を持っている企業は多くないというえに、独自で教室を開催しようとする企業も多くないことが予想されたため、まずはその意識を掘り起こしていくために、企業のニーズを聞いたり、企業のワークスタイルに適した教室を提案したりするコーディネーター活動も併用することとした。

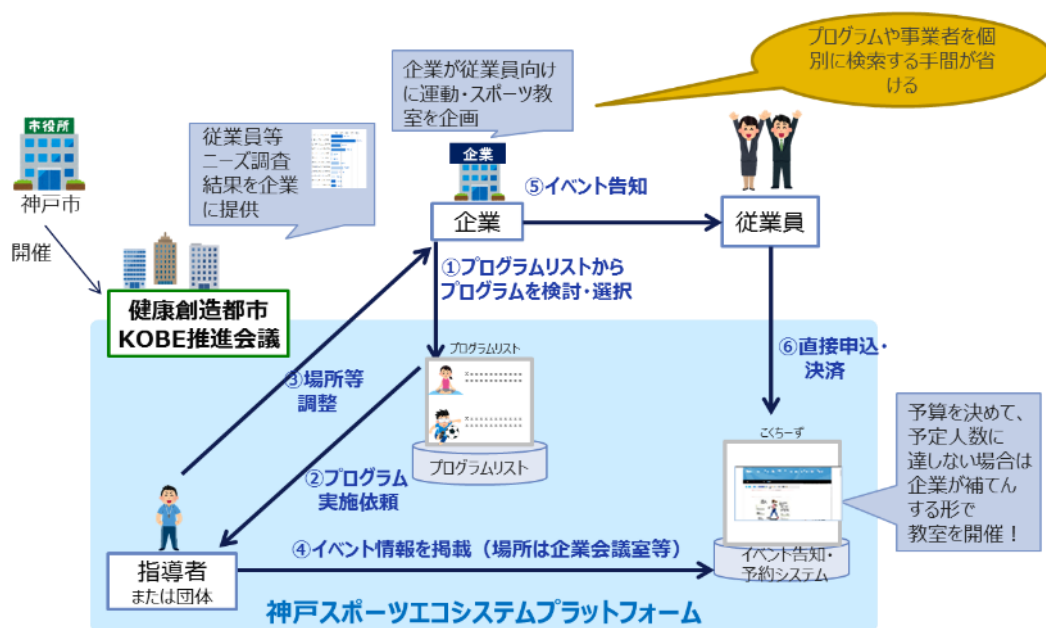


図 22 エコシステム③企業がプログラムリストから指導者を指名して教室開催

(2) スポーツ指導者・プログラムリストの整備

エコシステムの構築にあたり、企業へ企画または提供可能なプログラムの情報提供を希望する指導者を健康運動指導士会の協力を得て募集した。結果、指導者 20 名、プログラム 26 件の登録があった。

表 20 登録されたコンテンツ一覧

【運動】（体をうごかす）

コンテンツ名	概要
健康セミナー 理論と実技(体験型セミナー)	運動嫌いな人のために考えた「楽しめる運動プラン」から生活習慣病、睡眠、自律神経調整までさまざまなプランがあります。セミナー歴が長く経験豊富な講師が担当します。
今日からできる！メタボ・ロコモにならないための、かんたん「ながら運動」	職場や日常生活で気軽に取り組める「ながら運動」で、活動量を増やし、メタボ・ロコモ（腰痛・ひざ痛など）を予防・改善する方法をお伝えします。健康経営アドバイザー、自治体のメタボ・ロコモ予防の講師が指導させていただきます。
いきいきはつらつ 健康教室 / 自宅でできる うごきやすい身体づくり	毎日歯磨きのように自宅でもできる簡単な体操を覚えて動きやすい身体づくりを！脳トレや、スモールボールを使用するほぐし体操・ストレッチ・簡単なトレーニングで日常生活がよりスムーズに！
オフィスでできる簡単ストレッチ、エクササイズウォーキング、姿勢改善教室	簡単ストレッチ、エクササイズウォーキング、姿勢改善など、ご希望に合わせた45分のプログラム。会社の会議室や空きスペースで実施できます。
・職場でできる簡単ストレッチ ・ゼロから始めるヨガ講座 ・明日への鋭気を養うさわやかヨガ	ゼロから始めるヨガ講座、明日への鋭気を養うさわやかヨガなど、「誰にでもできる簡単ストレッチ」から「体力強化を目指すクラス」迄ご希望に合わせます。
自力整体	身体は刺激に必ず反応します。自分の身体をメンテナンスする習慣、知識を身につけましょう。
アフターファイブ・ワークショップ	肩こり・腰痛・膝痛改善からランニングの為に体幹トレーニングなど、希望に応じて実施できます。会社の会議室等でバスタオル 1 枚あればできます。健康運動指導士（指導歴 18年）が指導します。

【運動】（コンディショニング）

コンテンツ名	概要
女性必見！ 美脚・姿勢改善 Yamuna® Foot Fitness	Yamuna® Foot Fitnessでは特殊なツールを使って、生涯を通して痛みのない健康な足の維持方法を年齢に関係なくご提供いたします。夕方になると足がだるく、むくみを感じる方、足のアライメントにお悩みの方へ。
ボールを使って正しく美しく歩こう！ 健康ボールウォーキング	ウォーキングボールを使うと正しく美しい姿勢と歩き方が簡単にマスターできます。正しく美しい姿勢で歩くことで肩こり腰痛、膝の痛みも改善し前進運動でダイエット効果も高いです。
体幹整え！	ピラティスやパワーヨガのメソッドを使いながら、疲れない身体、正しい動作をできる身体を目指します。スポーツしている方々にはパフォーマンスの向上を狙えます。
定年まで働き続けられる身体づくり～アンチエイジングをめざして～	肩こり・腰痛予防と改善体操、骨盤矯正体操、認知症予防体操・コンディショニングトレーニング・ウォーキング指導など。生活指導等ができる保健師が行う運動指導です。

【運動】（肩こり・腰痛対策）

コンテンツ名	概要
姿勢改善ストレッチ&体幹トレーニング！	筒状のボールを使い姿勢改善のストレッチで疲れた筋肉をほぐし、整えた体を維持するための体幹トレーニングを行います。足裏のほぐしストレッチ・ボールストレッチ・骨盤周辺の調整ストレッチなど。
肩こり腰痛改善 椅子ヨガストレッチ	ミニボールを使って肩や腰の筋肉をほぐしてから、椅子の上でゆっくりとヨガのポーズを取ります。一日の疲れを取って、身体を心をスッキリできます。運動が苦手な方でも安心して参加できます。
簡単トレーニング&ストレッチ（肩こり、腰痛解消）	会議室等で実施可能。健康運動指導士有資格者が指導します。
背中をほぐして、血行をよくして、脂肪燃焼！	手ぬぐいを使って、一人でも簡単にできるストレッチをマスターしましょう。体の不調（肩こり、腰痛、膝痛）をよくしたい方。姿勢をよくしたい方へ。
腰痛解消ストレッチ	腰痛や膝痛にお悩みの方へ。保健師、健康運動指導士の資格を持った指導者が指導します。
肩こり解消・姿勢改善	就業中は前屈みになり、腕からくる肩こりも。お帰りにそのコリをほぐし姿勢を立て直し、スッキリとした気分と姿勢で帰宅の途に着きましょう。

【運動】（疲れをとる・リラックス）

コンテンツ名	概要
リラックス気功&呼吸法	気功独自の型、呼吸法。簡単なツボ押しをご紹介し、生活の中でもできる気功の動きをご紹介。体ほぐしの準備功・姿勢を整え呼吸法の実践（リラックス、活性化の呼吸法）・気功動作の練習・瞑想。
全身リセット！楽に動ける身体！Yamuna Body Rolling® （ヤマナボディローリング®）	Yamuna Body Rolling®（ヤマナボディローリング®）はボールさえあればどんな場所でも手軽に行え、痛みのない「いつまでも動ける身体」を維持することが出来る、斬新かつ個性的なセルフケアプログラムです。レッスン後は身体が軽く、呼吸も深く入り、頭もスッキリします。
ストレス、疲れ解消 脳活性化ストレッチ	抑うつ感低下、爽快感向上、集中力アップなどのメンタルへの効果も期待できる脳活性化エクササイズ【シナプソロジー】とミニボールを使ったストレッチ。ストレス解消、一日の心身の疲労回復、生産性向上、コミュニケーション活性化、職場の雰囲気改善に効果が期待できます。
快眠ストレッチで疲労改善	熟睡ができない方、疲れがぬげない方へ。自律神経を刺激するストレッチと呼吸法を、保健師の資格を持った指導者が指導します。
一日の疲れを取り除こう。とにかくスッキリ！	お疲れモードが続いていて、疲労が取り除けない人へ、「あ〜、気持ちよかった」と終われるクラス。

【測定】

コンテンツ名	概要
健康測定	血圧脈波・血管年齢・自律神経の測定など。職場内の空きスペースでできます。

【食】

コンテンツ名	概要
疲労回復・集中力アップの食事と簡単ストレッチ	慢性疲労回復・集中力アップのために、仕事の合間の間食のとり方や昼食の選び方等、簡単に毎日取り入れることができる食事のポイントをお話します。企業への研修実施経験のある管理栄養士と健康運動指導士の有資格者が指導。
今日のおかずの選び方 ～中食編～	コンビニやスーパーの惣菜を利用することが多い方に向けて、おかずの選び方を学びます。ダイエットサポート経験より食事の大切さを伝えます。
毎日の食事が未来を変える！ ～日々の食事の見直し&確認から～	自分の食事の振り返りから、栄養素・エネルギーなど自分にあった理想的な食事を考えます。会社の会議室で実施できます。セミナー途中にストレッチを入れます。管理栄養士と健康運動指導士の資格保持者が指導します。

【企業提供コンテンツ】

コンテンツ名	概要
楽しくてケガをしない走り方教室	正しい走り方をマスターし楽しく効率よく健康になろう！！
働くひとのセルフケア 今日からできる疲労対策	疲労の仕組みを学び体操を行います。オプションによりお疲れ様度チェック（自律神経測定）ができます。
ストレス解消！手ぶらでピンポン	職場帰りに卓球で楽しく汗を流しましょう！
ゴルフレッスン	インドアゴルフ練習場で、ストレッチ運動と打球練習を行い、運動不足とストレスを解消しましょう。
勝ち飯	オリンピック選手の食事サポートをしてきたノウハウを生かし、目標をかなえるカラダづくりのヒントを伝えます。
健康経営支援プログラム	主に、中堅・中小企業向けのコンテンツで、健康経営を定着化させる各種支援目的のツールです。
専門人材によるサポート	歯科医師、管理栄養士、理学療法士、看護師など、医療職種スタッフが栄養相談等を提供できます。

出典）NTT データ経営研究所作成

(3) ICT システムの選定・決定

エコシステムの構築に向け、活用する ICT システムを選定した。

1) 民間施設の利用

指導者と民間施設のマッチングに向けて、シェアリングサービス「スペースマーケット」内に特設ページを構築し、神戸市内でスポーツ利用の可能なスペースを一覧化した。

株式会社スペースマーケットの協力を得て、スペースマーケットにおいて収集されたレンタルスペースのうち、該当する企業外施設の情報を抽出した。指導者は特設ページを通じて、施設の検索、空き状況の確認、予約、支払い、イベント告知を行うことができる。



出典) スペースマーケット (<https://www.spacemarket.com/features/kobe-sport>)

図 23 ICT システム：スペースマーケット特設ページ

また、一般に開放されていない企業内会議室等については、別途事務局にて場所と利用可能な日時をとりまとめ、指導者に周知する形とした。

2) 公共スポーツ施設の利用

指導者と公共施設のマッチングに向けて、神戸市内の公共スポーツ施設を集約した「神戸市スポーツ情報サイト KOBE SPORTS WEB」を活用することとした。

指導者は、サイトを通じて施設の検索を行うことができる。空き状況の確認、予約、支払いについては、個別に施設窓口と行う必要がある。



出典) KOBE SPORTS WEB (<https://kobe-sportswb.com/>)

図 24 ICT システム : KOBE SPORTS WEB

3) 利用者への周知

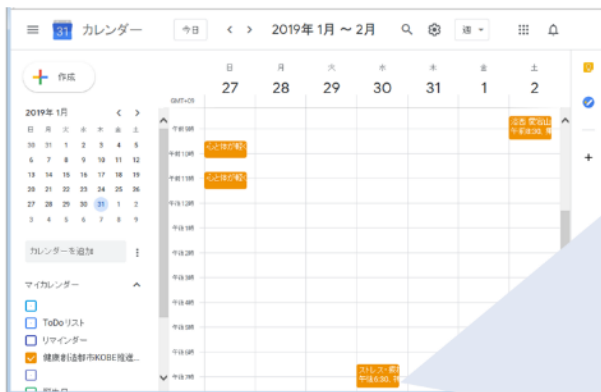
指導者と利用者のマッチングに向けて、イベント告知には Google カレンダーおよびイベント告知サービス「こくちーず」を活用した。

指導者はこくちーずを通じて、イベントの告知と参加者募集を行うことができる。

イベントを企画した指導者は、こくちーずを利用し、イベント告知用のページを作成する。事務局は、指導者から企画の情報を集約し、Google カレンダーに一覧化する。

これらの情報は、健康創造都市 KOBE 推進会議健康経営部会を通じて、参画企業の担当者に連絡され、各社の従業員に告知される仕組みとした。

■Googleカレンダー



■こくちーず



出典) Google カレンダー、こくちーず WEB サイト

図 25 ICT システム : Google カレンダーおよびこくちーず

3.1.3 マッチング

(1) 指導者が企業外施設を借り企画する教室

1) マッチングの流れ

指導者が企業外施設を借り企画する教室のマッチングの流れは以下のとおりである。

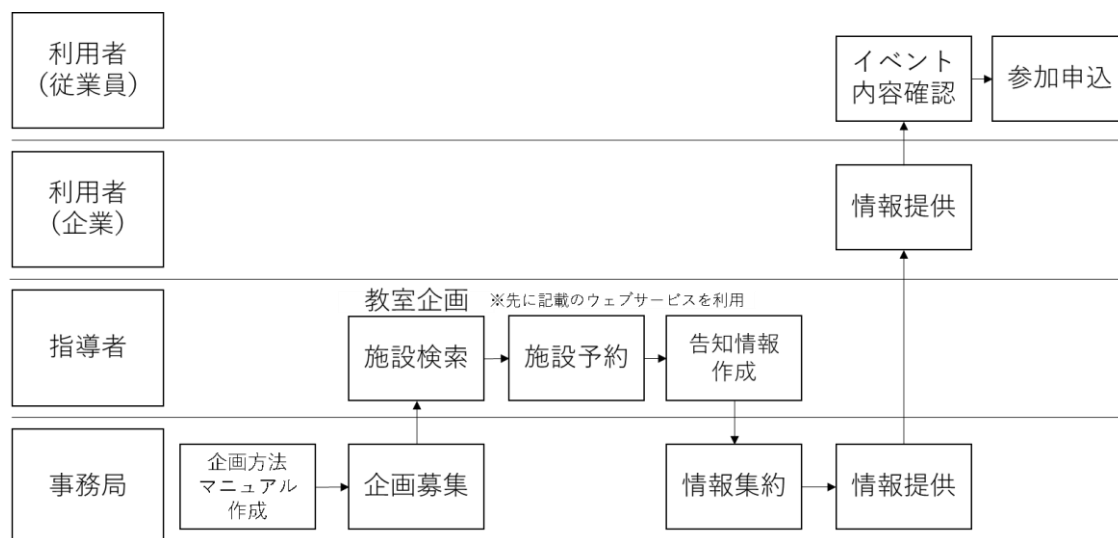


図 26 マッチングの流れ（指導者が企業外施設を借り企画する教室）

指導者の企画募集では、指導者が ICT システムを使用して教室の日時・場所を確保するとともに、企画の告知用のウェブページを作成する。企画された教室・イベントの情報は、事務局で取りまとめた上で健康創造都市 KOBE 推進会議を通じて参画企業・団体に配信する。イベントの受付管理は、作成した告知用ウェブページを通じて指導者が行う。

指導者は、場所の利用料等実費負担が必要であるものの、収益が出るよう参加費・最少催行人数を自由に設定することができる。

募集する企画は過去に実施されているもの、応募のために独自に企画されたもののいずれでもよいが、以下の条件を満たすものとした。

- ① 参加を通じて、参加者の健康増進に役立つ内容であること。（スポーツ・運動、食などのテーマを想定しているがこれに限らない）
- ② 企業で働く 20～60 代を対象としていること。
- ③ 適切な資格を有する指導者によって実施されること。
- ④ 企業からの希望があれば、2018 年 11 月～2019 年 1 月の間に 1 度は実施できる見込みがあること。
- ⑤ 健康創造都市 KOBE 推進会議を通じて情報が公開されることに同意できること。また、参加者へのアンケート実施に協力できること。

また、企業従業員アンケート（前述 3.1.1 (3) 5）のうち、企業従業員が関心を持っている教室の内容、希望する開催時間・場所、費用についてアンケート結果を開示したほか、それらをもとにした企画を例示した。

プログラムA	
対象	全年代の男女
内容	【体調改善】腰痛改善・肩こり対策教室・疲れをとる体操教室（ヨガ・ストレッチ等）
時間帯	平日就業時間直後・週1回
場所	職場内の空きスペース（会議室、駐車場等）
参加費	1000円程度

プログラムB	
対象	30-40代男性
内容	【スポーツ指導】走り方教室・ゴルフ指導教室・テニス指導教室等
時間帯	平日就業時間直後・週1回
場所	職場内の空きスペース（会議室、駐車場等）・地域内の公共施設・空きスペース
参加費	1500～2000円程度

プログラムC	
対象	50-60代女性
内容	【美容】モデルウォーク・姿勢改善教室・体幹トレーニング（シェイプアップ）
時間帯	平日就業時間直後・週1回
場所	職場内の空きスペース（会議室、駐車場等）
参加費	1000円程度

プログラムD	
対象	全年代の男女
内容	【測定】体力年齢、体力測定、姿勢測定、歩き方測定などができる教室
時間帯	平日就業時間直後・月1回
場所	職場内の空きスペース（会議室、駐車場等）
参加費	800円程度

図 27 募集する企画の例

2) 教室の企画

マッチングの結果、指導者による教室が5件企画され、告知を行ったものの、いずれも参加希望者がなく実施にいたらなかった。

あわせて企業が開催予定のイベントとして2件の情報提供があり、あわせて告知した。イベントは予定どおり開催された（イベントの運営上、告知による集客があったか集計することはできなかった）。

表 21 企画された教室（指導者が企業外施設を借り企画する教室）

No.	企画名	場所	日時	参加費	企画者	結果
1	健康的で美しいウォーキングをするためのポールウォーキング教室	神戸三宮東遊園地	2018年12月20日(木) 18時00分～19時00分	1,000円	指導者	集客なしのため開催中止
2	健康的で美しいウォーキングをするためのポールウォーキング教室	神戸三宮東遊園地	2019年1月17日(木) 18時00分～19時00分	1,000円	指導者	集客なしのため開催中止
3	肩こり腰痛改善椅子ヨガストレッチ	デザイン・クリエイティブセンター神戸(KIITO)302	2019年1月23日(水) 18時30分～19時30分	1,500円	指導者	集客なしのため開催中止
4	心と体が軽くなる健康ストレッチ教室	KOBE RENT SPACE 3F	2019年1月27日(日) 9時30分～10時15分(45分) 10時45分～11時30分(45分)	1,000円	指導者	集客なしのため開催中止
5	ストレス・疲れ解消脳活性化ストレッチ	デザイン・クリエイティブセンター神戸(KIITO)302	2019年1月30日(水) 18時30分～19時30分	1,500円	指導者	集客なしのため開催中止
6	阪急ハイキング&阪神電車のおすすめウォーキング	阪急電鉄および阪神電鉄沿線	1月～2月の期間に計7回（各回完結）	無料	企業	告知を実施し、予定通り開催
7	日本健康マスター検定	甲南大学岡本キャンパス	2019年2月24日(日)	コースにより5,000円または8,000円	企業	告知を実施し、予定通り開催

3) 利用者への告知

指導者が企業外施設を借り企画する教室について、神戸市を通じて健康創造都市 KOBE 推進会議参画企業・団体の従業員に対し、メール配信により12月10日、1月10日、1月20日計3回周知した。

(2) 指導者が企業内会議室等を借り企画する教室

1) マッチングの流れ

指導者が企業内会議室等を借り企画する教室のマッチングの流れは以下のとおりである。

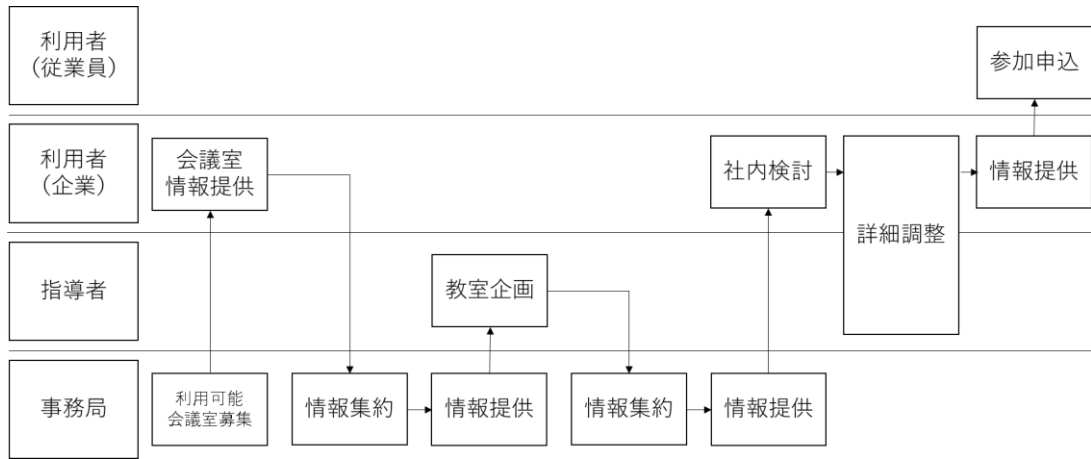


図 28 マッチングの流れ（指導者が企業内会議室等を借り企画する教室）

指導者が企業外施設を借り企画する教室と同様に指導者が教室を企画する。場所については、事務局が事前に健康創造都市 KOBE 推進会議参画企業・団体から利用可能な会議室等の情報を集約し、企業から提供された会議室等に対して企画を立てる。その後、企業が企画の実施を検討した上で、採用する企画については指導者と企業で詳細の調整を行う。

指導者は企業外施設を借り企画する教室と同様に、場所の利用料等実費負担が必要であるものの、収益が出るよう参加費・最少催行人数を自由に設定することができる。

2) 教室の企画

事務局が企業に対し、利用できる会議室等（場所・日時）を募ったところ 4 社より候補をいただいた。企業内会議室等情報に対し、指導者が教室を 8 件企画した。うち 1 件は指導者による辞退のため、検討を中止した。ほか 7 件のうち企業との調整により 4 件が採用され、告知された。うち集客のあった 3 件が実施された。

表 22 指導者の企画した教室

No.	企画名	場所	日時	参加費	結果
1	脳活性化ストレッチ	株式会社神戸新聞社	12月25日(火)18時～19時	1,080円	実施
2	肩凝・腰痛改善コンディショニングワークショップ	株式会社神戸新聞社	1月21日(月)18時～19時	500円	実施
3	マインドフルネスとファンクショナルトレーニング(初級編)	株式会社神戸新聞社	1月25日(金)18時～	要相談	指導者が辞退したため検討中止
4	自分の身体と対話しながら行う、肩こり疲労解消胴体ストレッチ	株式会社マルヤナギ小倉屋	1月29日(火)18時～19時	500円	実施
5	タオルや椅子を使った健康ストレッチ教室	株式会社マルヤナギ小倉屋	1月11日(金)18時～19時 1月18日(金)18時～19時 1月29日(火)18時～19時	1,000円	開催見送り
6	椅子ヨガストレッチまたは脳活性化ストレッチ	株式会社マルヤナギ小倉屋	1月18日(金)17時30分または18時開始	1,000円	開催見送り
7	脳活性化ストレッチ	企業 K	1月28日(月)19時30分～20時30分 1月28日(月)9時30分～10時30分	1,000円開催見送り	企業により採用・告知されたが、集客なしのため開催中止
8	心と体が軽くなる健康ストレッチ教室	企業 K	要相談	1,000円	採用見送り

3) 利用者への告知

企業の意向により自社の社員のみを対象とする企画については、健康創造都市 KOBE 推進会議を通さず、企業内で個別に告知を行った。また、他社の従業員も参加可能な企画については、健康創造都市 KOBE 推進会議の参画企業・団体を通じた情報発信を行った。

(3) 企業がコーディネーターの支援、または、プログラムリストから指導者を指名して開催する教室

1) マッチングの流れ

企業がコーディネーターの支援、または、プログラムリストから指導者を指名して開催する教室のマッチングの流れは以下のとおりである。

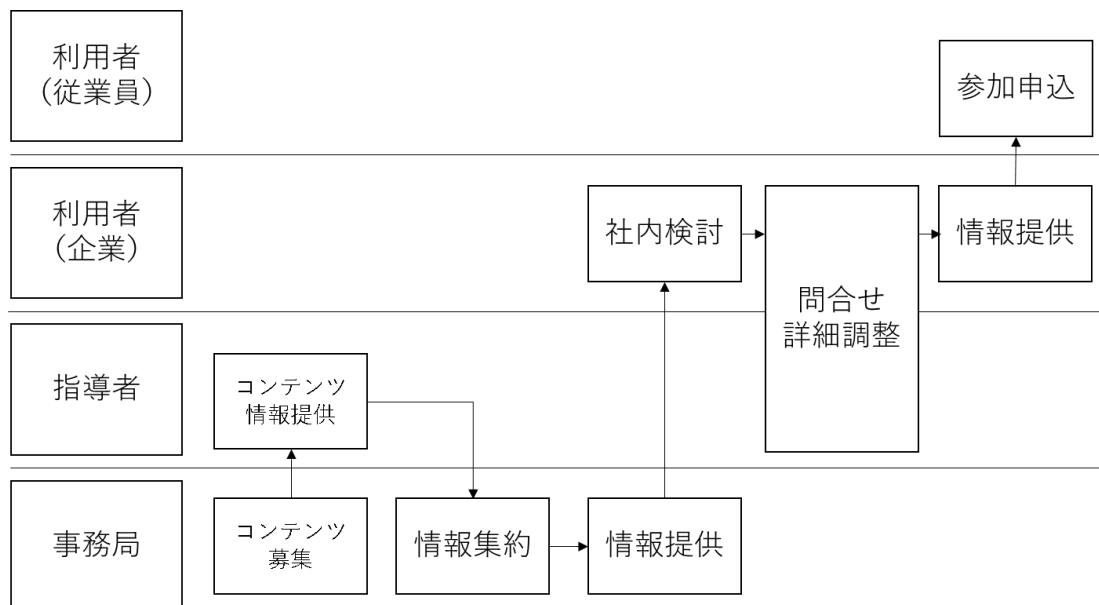


図 29 マッチングの流れ（企業がコーディネーターの支援、または、プログラムリストから指導者を指名して開催する教室）

このモデルでは、自主企画を実施する指導者は、提供できるコンテンツを事務局に知らせ、事務局が企業へコンテンツを周知する。その後、企業が指導者へオファーを出し、教室を開催する。開催場所、日時は企業と指導者で直接調整する。その後、指導者がシステムを通じて周知を行い、利用者から直接申し込みを受ける。

2) 教室の企画支援

指導者から、企業に対し提供可能な教室のコンテンツ案が 26 件、健康経営部会の会員企業からも提供可能な教室のコンテンツ案が 7 件寄せられた（表 20）。これらの情報を、健康経営部会の企業に提供し、各社における教室企画を促した。また、コーディネーターが訪問し、また、利用者に関する調査における企業へのヒアリングと同時に、コーディネーターが企業のニーズを聞き取り、プログラムの利用の支援を実施した（表 11）。

健康運動教室の開催のための予算を持っている企業がほとんどなかったため、指導者への教室開催依頼には至らなかった。

3.1.4 教室開催

利用者への告知の結果、指導者が企業内会議室等を借り企画する教室が3件実施された。

表 23 教室概要①

教室名	脳活性化ストレッチ
場所	株式会社神戸新聞社 会議室 (神戸市中央区東川崎町一丁目5番7号)
日時	2018年12月25日(火)18時～19時
講師	石井 誠 (健康運動指導士 ころろ・からだ・すこやか体操企画)
対象者	神戸新聞社 従業員
参加費	1,080円
参加人数	5名 (定員5～12名)

表 24 教室概要②

教室名	肩凝・腰痛改善コンディショニングワークショップ
場所	株式会社神戸新聞社 会議室 (神戸市中央区東川崎町一丁目5番7号)
日時	1月21日(月)18時～19時
講師	富田 悠 (健康運動指導士 医療法人松徳会)
対象者	神戸新聞社 従業員
参加費	500円
参加人数	10名 (男性9名女性1名) (最低敢行人数10名)

表 25 教室概要③

教室名	自分の身体と対話しながら行う、肩こり疲労解消胴体ストレッチ
場所	株式会社マルヤナギ小倉屋 会議室 (神戸市東灘区御影塚町4丁目9番21号)
日時	1月29日(火)17時30分～18時30分
講師	飯田 文 (健康運動指導士、保健師)
対象者	株式会社マルヤナギ小倉屋 従業員
参加費	500円
参加人数	20名 (定員5～15名)

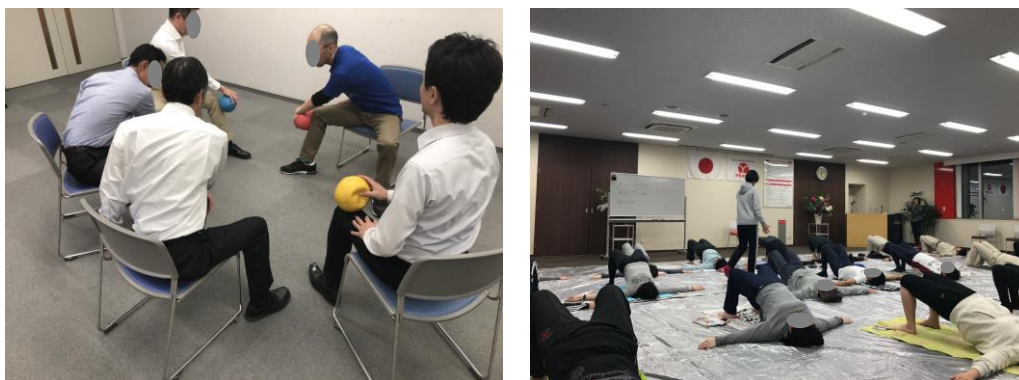


図 30 教室開催の様子

指導者が企業外施設を借り企画する教室は5件、指導者が企業内会議室等を借り企画する教室については上記のほか1件が告知されたものの、集客がなく実施にいたらなかった。

3.1.5 事後評価

(1) 企業ヒアリング結果

教室開催に対して会議室等を提供した企業に対し、ヒアリングを行った。企業として、従業員が求めている健康経営の機会を提供することで、企業としての満足度が高かったことが伺えた。

表 26 企業従業員事後アンケート実施概要：参加者アンケート

企業名	ヒアリング概要
株式会社神戸新聞社	<ul style="list-style-type: none"> ・期待以上にすごく盛り上がり、大変楽しかった。 ・左右の手の動き、左手でボールを操りながら、計算をするとか、おやじたちがワイワイ盛り上がり、本当に楽しかった。 ・参加後には、自分自身の生活も見直し、椅子の高さの調節、ウォーキング、ウェアラブル端末の装着なども実施し始めた。 ・会社が主体的に社員の運動機会を提供する仕組みにつなげていけないかと、社内で交渉している。
株式会社 マルヤナギ小倉屋	<ul style="list-style-type: none"> ・ 企業内に教室開催の案内をしたら、若い女性から『肩こりがひどいのでこういう機会は嬉しいです！』とメッセージ付きで申し込みが入り、その後も連続して申し込みが来た。従業員がこのような場を求めていることを知った。 ・ 中小企業では予算を取って講師を呼ぶことはなかなか難しいが、参加費形式で講師に来てもらうことができ、社員にも喜んでもらえるシステムは大変良かった。他の中小企業にも参考にしてみたいと感じた。 ・ 実証期間終了後も継続して教室を開催することを検討している。

(2) 参加者アンケート結果

教室開催に対して会議室等を提供した企業に対し依頼を行い、教室参加者向けのアンケート調査を行った。企業の従業員の運動不足に対する意識は強く、職場等を拠点とした運動・スポーツを促進する取組に期待する意見が多く得られた。

表 27 企業従業員事後アンケート実施概要：参加者アンケート

調査名	KOBE 健康経営推進型スポーツエコシステム 教室参加者様アンケート調査
目的	企業の従業員の運動・スポーツに対する意識やニーズを把握し、 今後運動指導者が実施する教室・プログラムの参考にする。
実施期間	各教室の開催当日～1週間程度
アンケート調査法	電子ファイルによる調査票
対象者	本実証において、教室を企画・告知した企業3社
実施手法	会員企業から従業員にメール送付
有効回答数	33件（回収率100%）

教室開催日	開催場所	教室名	参加者数
2018年12月25日	株式会社神戸新聞社	脳活性化ストレッチ (講師：石井 誠氏) 参加費：1,080円	5名
2019年1月21日	株式会社神戸新聞社	腰痛改善コンディショニングワーク クショップ (講師：富田 悠氏) 参加費：500円	10名
2019年1月29日	株式会社マルヤナギ小倉屋	肩こり疲労解消！ストレッチ教室 (講師：飯田 文氏) 参加費：500円	18名

- 教室参加者は男性が約2/3を占めており、年齢では30～50代が多かった。

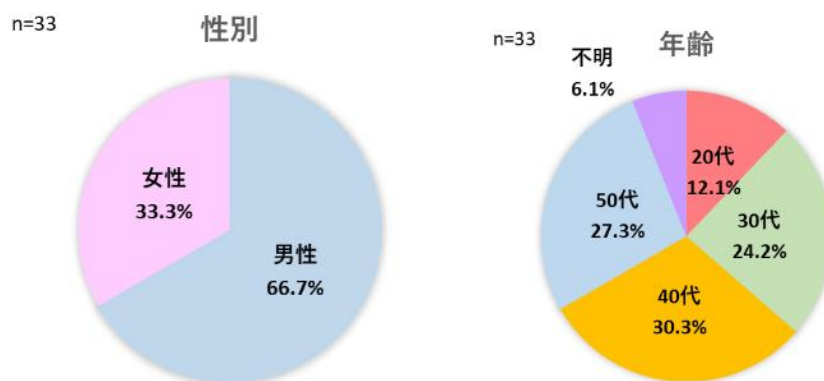


図 31 企業従業員事後アンケート（参加者）：性別・年齢

- 教室参加者の職種は、管理職と事務職と営業職等が多かった。

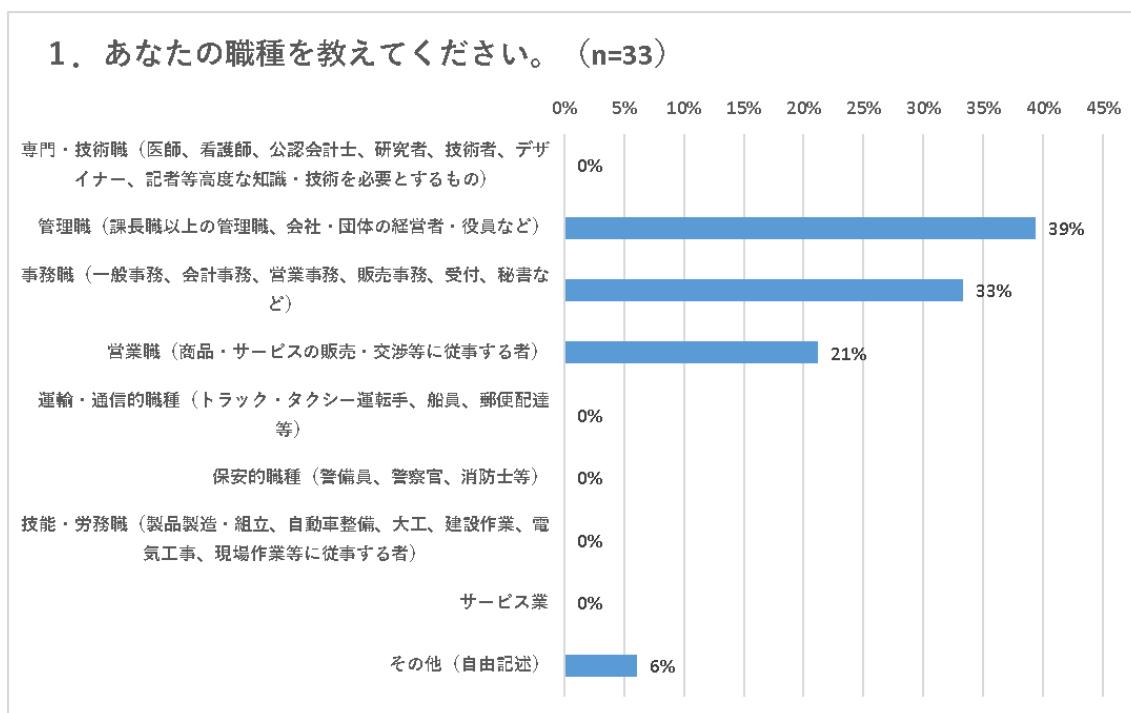


図 32 企業従業員事後アンケート (参加者) : 職種

- 運動不足を感じているのは、全体の 87.8%であった。

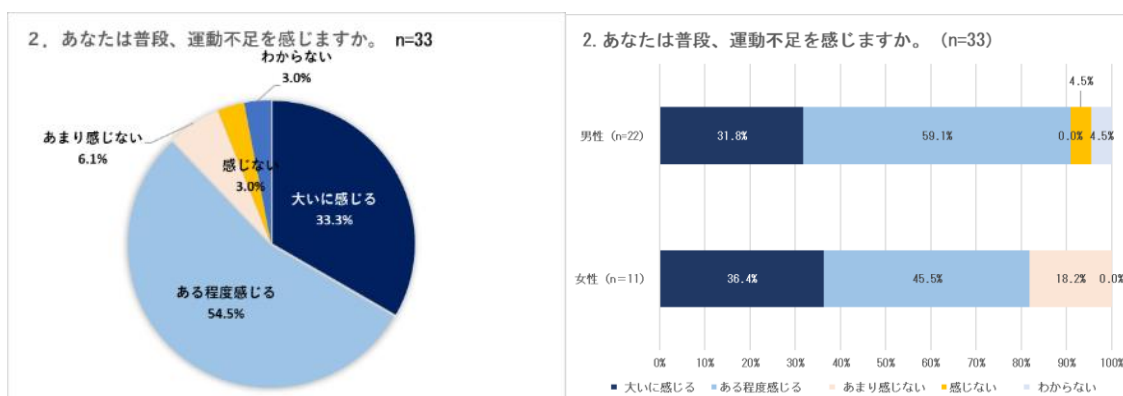


図 33 企業従業員事後アンケート (参加者) : 運動不足

- 参加者のうち週 1 日以上運動・スポーツをする者の割合は 56.3%であり、女性では 80.0%が実施していた。

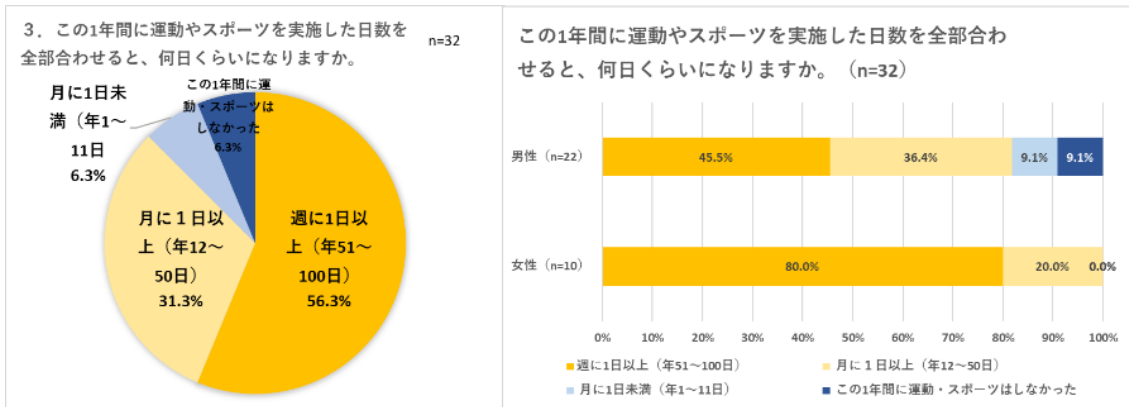


図 34 企業従業員事後アンケート（参加者）：運動・スポーツ実施率

- 教室に参加した動機は「運動不足を感じていたから」、「内容が魅力的だったから」、「参加しやすい場所だったから」が最も多く 42.9%であった。一方で、「指導者が良さそうだったから」という理由で参加した人は 0%であった。指導者の実績や信頼度を伝えるには一段と工夫が必要であることがわかる。

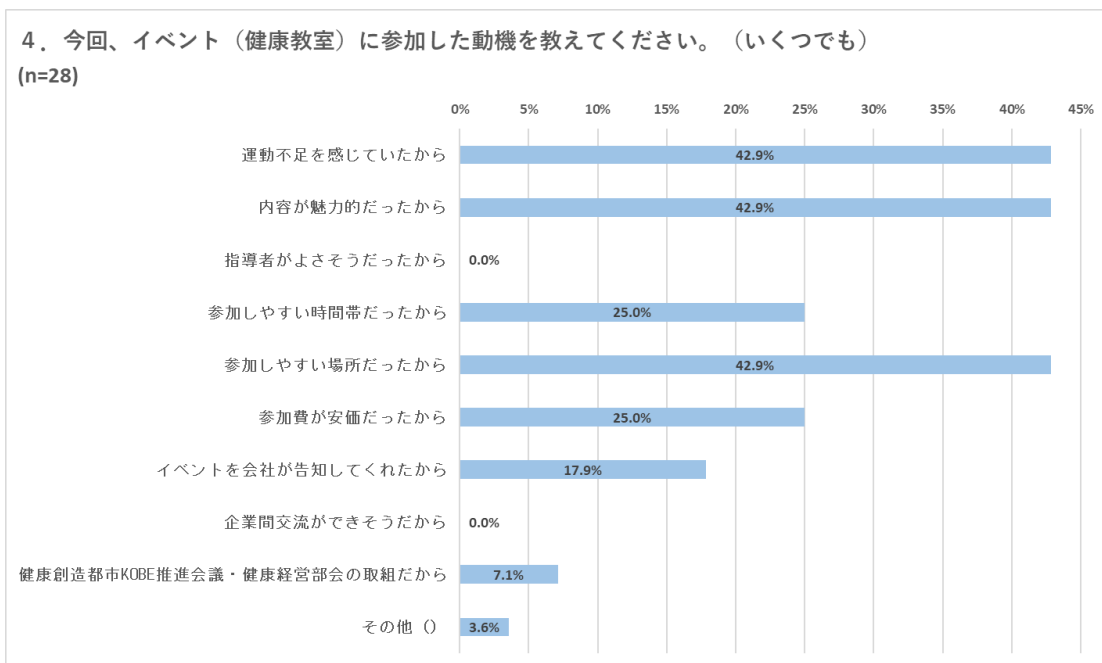


図 35 企業従業員事後アンケート（参加者）：イベント参加動機

- イベントの総合的な満足度は「とても満足」39.4%、「まあ満足」54.5%の合計 93.9%が満足という回答であった。

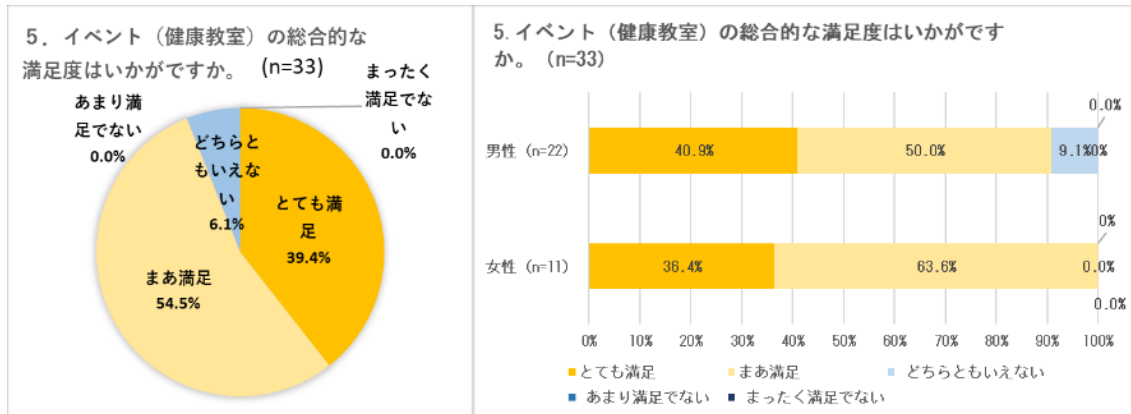


図 36 企業従業員事後アンケート（参加者）：イベントの総合的な満足度

《理由》（自由記述）

【とても満足】

- ・ 自分で体をほぐす等のやり方を知らなかったの、今後自分でできるし、効果も確認できたから。
- ・ 簡単な体操で効果が実感できたから。
- ・ ゆっくりした動きだったのに体が軽くなった気がしたから。

【まあ満足】

- ・ きちんと指導して頂いて、とても参考になったので。
- ・ 面白かった。時間があっという間に過ぎた。
- ・ 体が温まった感じがしたのが心地よかった

【どちらとも言えない】

- ・ 恒常的に続けるには面白み、手軽さに欠ける。

- イベントの開催場所と参加費に対する満足度が大変高く「とても満足」の割合が約6割であった。どの項目も満足度は高い傾向がみられた。

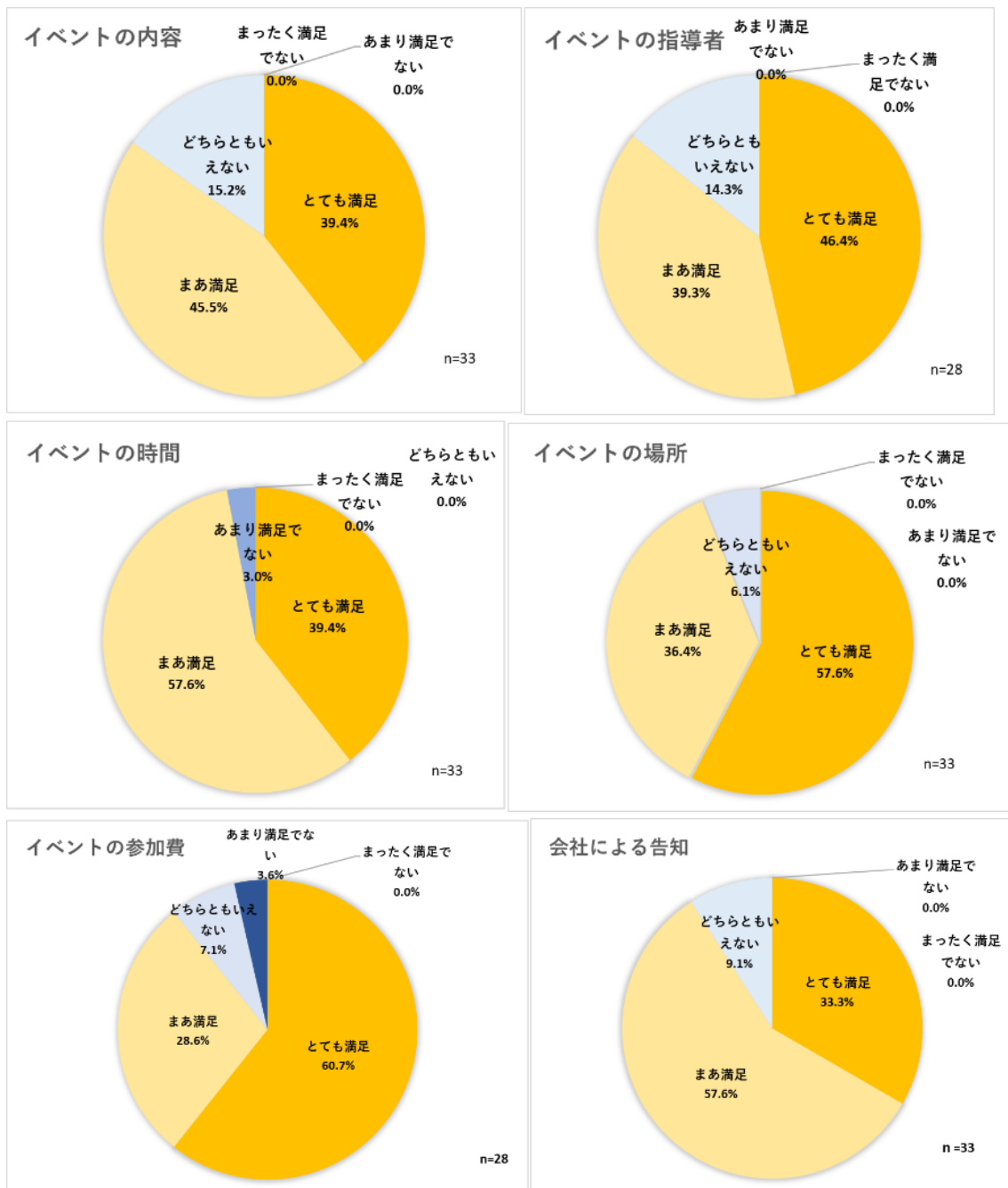


図 37 企業従業員事後アンケート（参加者）：イベントの満足度（項目別）

《理由》（自由記述）

- ・ 参加費用は全く気にならない額。
- ・ 気軽に手軽に参加できたから。
- ・ もう少しハードな内容でもよかった。
- ・ 終業後にそのまま社内が会場というのはとても便利。ただ、冬場ということもあり床面が冷たく堅かったため、寒かったり腰が痛かったりした。

- 今後の参加意向は非常に高く約 8 割が参加したいと回答した。

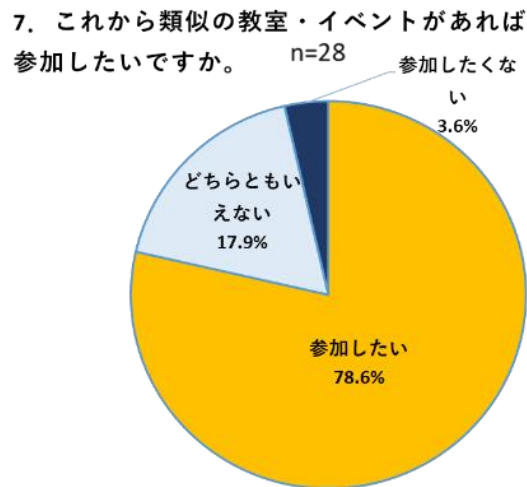


図 38 企業従業員事後アンケート（参加者）：今後の参加意向

- 職場を通じて教室の案内があることや、ウェブ上での参加申し込みができることについては、約 8 割が「より教室・イベントに参加しやすくなる」と回答した。個人で運動を継続するのが難しい人や、自分から積極的に運動機会を探すのが難しい人にとって、職場を通じたアプローチが有効であることが示された。

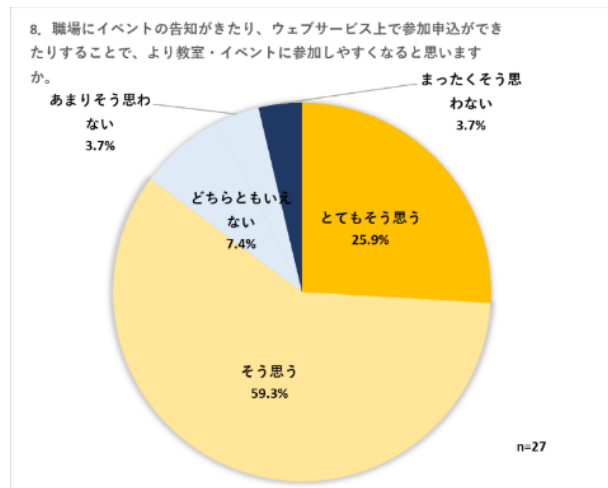


図 39 企業従業員事後アンケート（参加者）：情報周知と ICT 活用による参加しやすさ

《理由》(自由記述)

【とてもそう思う】

- ・ 会社でのイベントなら参加しやすいし、手軽感がある。同僚も一緒なので気楽。
- ・ 自分で探すのは大変だから
- ・ 手軽に申し込めるのが一番いいと思います。
- ・ 自分で開催情報を調べる手間がないと便利、申込時に用紙の記入がないと楽

【そう思う】

- ・ わざわざ通うのは、続かないと思うので
- ・ ウェブサービスはいつでも参加申し込みできるため

【あまりそう思わない】

- ・ 社内開催なので参加しました。社外開催の場合、参加しにくいと思います

【まったくそう思わない】

- ・ 結局のところスケジュール次第での参加可否の返答になることにかわりないので。

(3) 不参加者アンケート結果

教室を企画した企業に対し依頼を行い、教室に参加しなかった従業員向けのアンケート調査を行った。今回の教室に参加できなかった理由は、開催時間が合わなかったという回答が多い。また、今後の企業内スペースでの運動教室への参加意向は約4割であった。

表 28 企業従業員事後アンケート実施概要：不参加者アンケート

調査名	健康創造都市 KOBE 運動健康教室 教室に参加しなかった方へのアンケート調査
目的	企業の従業員の運動・スポーツに対する意識やニーズを把握し、 今後運動指導者が実施する教室・プログラムの参考にする。
実施期間	2019年3月4日（月）～15日（金）
アンケート調査法	WEB アンケート
対象者	本実証において教室を企画・告知した企業3社
実施手法	企業から従業員にメール送付
有効回答数	54

- 教室に不参加だった回答者の属性は以下の通りであった。

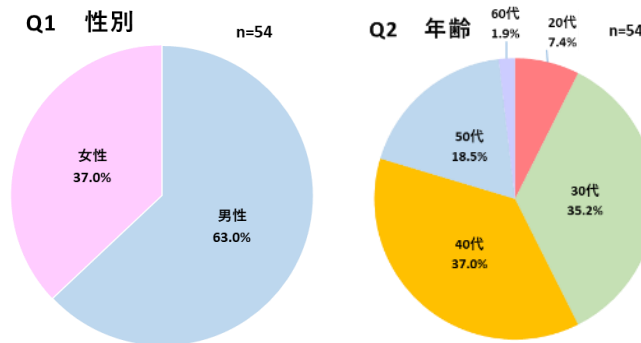


図 40 企業従業員事後アンケート（不参加者）：性別・年齢

- 「運動不足を大いに感じる」が48.1%、「ある程度感じる」が37.0%で、ほぼ9割近くが運動不足を感じていた。

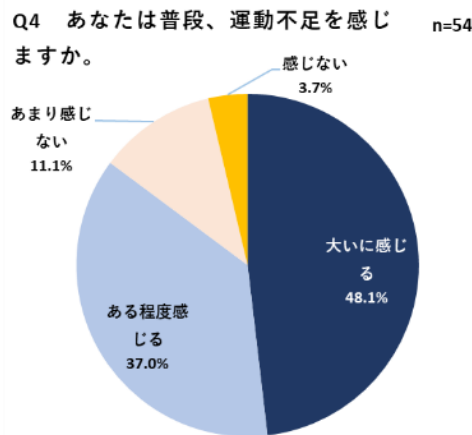


図 41 企業従業員事後アンケート（不参加者）：運動不足

- 健康推進会議 KOBE の取り組みで「企業内で開催される運動教室を知っていた」は 75.9%であり認知度が高かったが、「神戸市内で開催する健康創造都市 KOBE 推進会議イベントを知っていた」は 5.6%と認知度が低迷した。

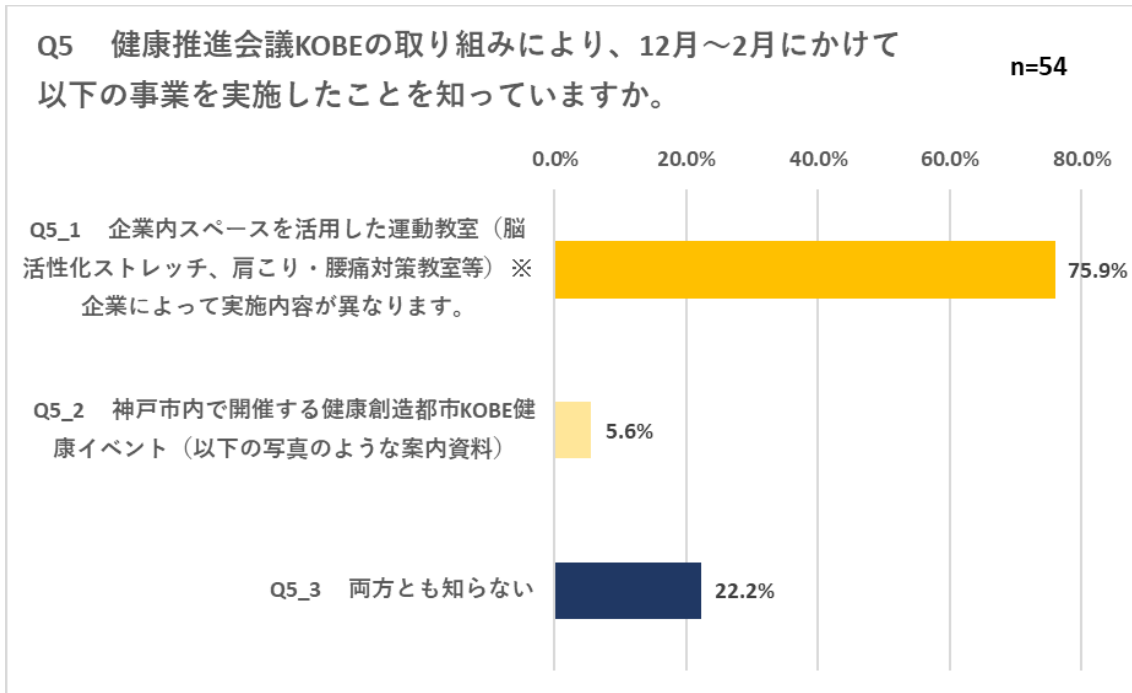


図 42 企業従業員事後アンケート（不参加者）：認知度

- 企業内スペースで実施した運動教室に参加しなかった理由として最も多かったのが、「参加しにくい時間帯だったため」61.1%であった。

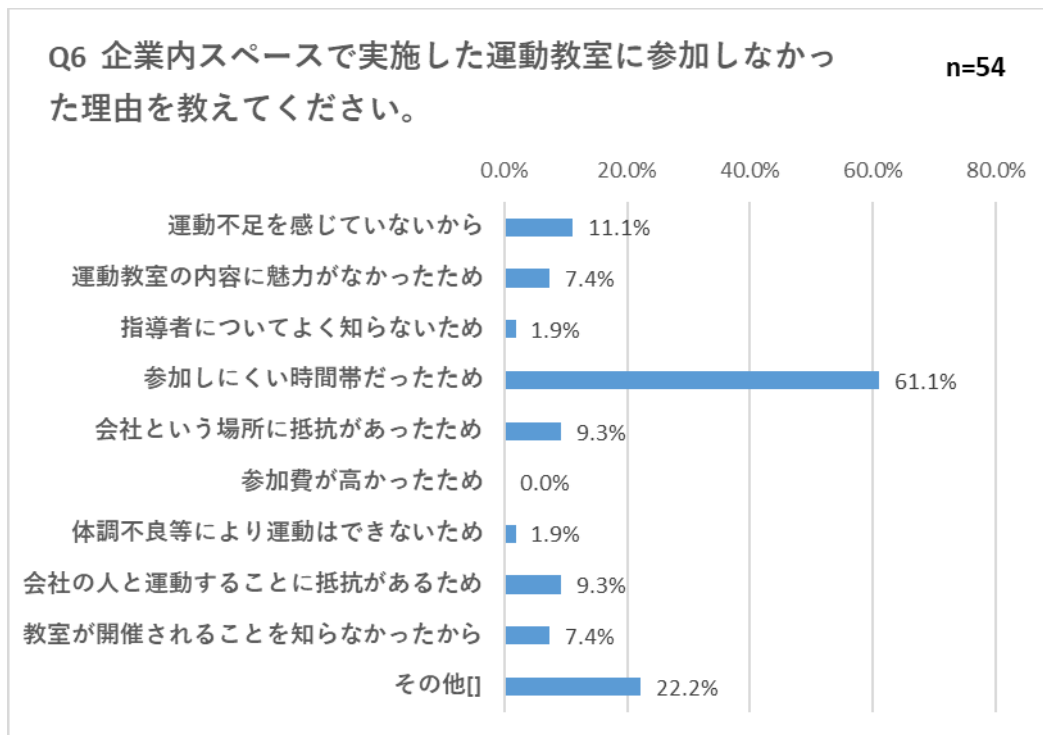


図 43 企業従業員事後アンケート（不参加者）：企業内スペースでの運動教室不参加理由

【その他の理由】

- ・たまたま用事があった
- ・遠い地方の総局に勤務していたので
- ・大阪支社勤務でいけなかった
- ・他に用事があったため
- ・仕事が休みの日だったため
- ・参加しました
- ・予定があった
- ・業務都合により。
- ・先約があったため。
- ・業務都合により。
- ・工場応援のため本社に参加できず
- ・出張

- 企業内スペースで実施する新しい運動教室の企画があった場合の参加意向は 39%で約 4 割であった。

Q7 企業内スペースで実施する新しい運動教室の企画があれば、今後参加する可能性はありますか。

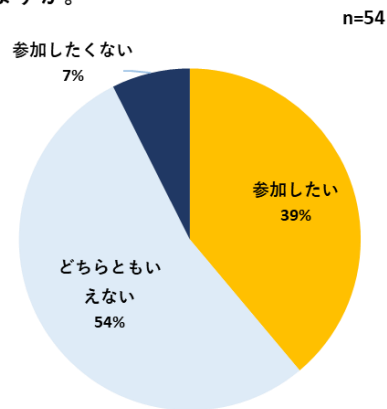


図 44 企業従業員事後アンケート（不参加者）：企業内スペースでの運動教室参加意向

- 神戸市内で実施した運動教室に参加しなかった理由として最も多かったのが、「教室が開催されることを知らなかったから」で 66.7%であった。

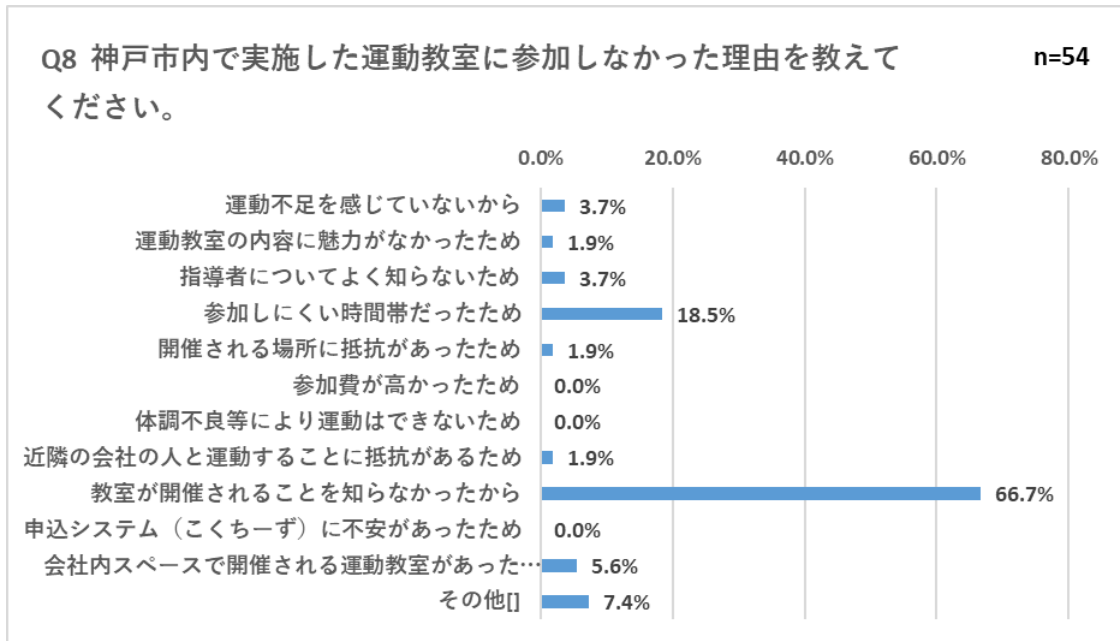


図 45 企業従業員事後アンケート（不参加者）：神戸市内での運動教室不参加理由【その他のコメント】

- ・用事があり参加できなかった
- ・遠い部局に勤務していたため
- ・知らなかったため

- 神戸市内で実施する新しい運動教室の企画があれば「今後参加したい」との回答者は、8.8%で少なかった。

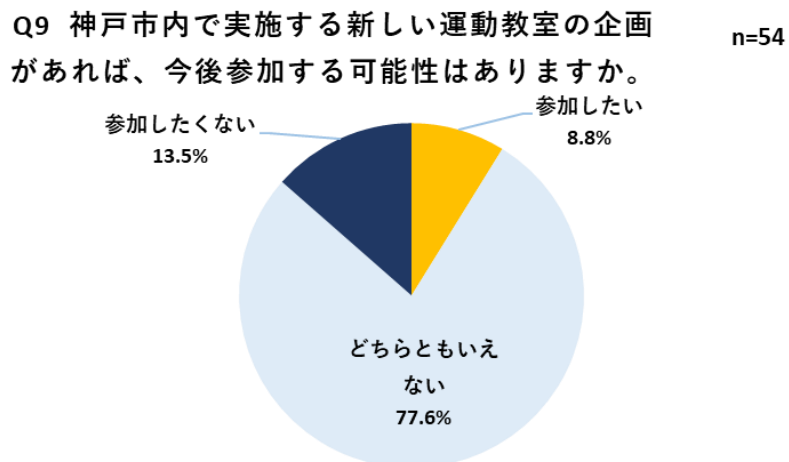


図 46 企業従業員事後アンケート（不参加者）：神戸市内での運動教室参加意向

- その他のフリーコメントでは、以下の意見が得られた。

【その他】

- ・ジムでヨガをしてるのでもうすこしハードなプログラムがあれば行きたいと思いました。
- ・デスクワーク向けの正しい姿勢講座をやってほしいです。

(4) 指導者実施結果

指導者に対しては、教室の企画や ICT システム活用時に電話やメールで連絡を取り、様々な意見を得ることができた。

指導者は 20 名の登録があったが、自ら場所を用意して教室を企画する意思を示したのは、半数の 10 名であった。

また、これらの指導者のうち、企業外施設を活用した企画を立てたのは 3 名、企業内会議室等を活用した企画を立てたのは 5 名であった。

企業外施設の活用を促したものの、指導者からは「企業の会議室を活用したい」という声が多く上がった。企業の会議室の中でも特に収容人数が大きいスペースについては、一つの日時の枠に複数名の指導者が希望する状況がみられた。

また、企業外施設を利用する場合で、参加希望者が最少催行人数まで集まらなかった場合には、施設側へのキャンセル料が必要となる。2 週間前の時点で施設利用料の 100% のキャンセル料がかかることが、指導者の心理的な負担になっていることが分かった。

指導者の中には、企業外施設、複数企業の会議室等でも企画を行うなど、熱心に企画を立案する人も見られた。実施した企業からの評価は高かったため、継続的な関係性構築につながることを期待される。

また、企業との関係性をうまく構築し、定期的な開催を行うことが決まった指導者も見られた。

指導者からは、教室開催における保険をどうするかという質問があった。本実証では、日本健康運動指導士会の会員が指導者になっているため、会員本人（正会員）による指導中に第三者及び財物が被った、指導中に生じた偶然の事故による賠償責任に対する損失を保険金として支払う制度があることから、問題なく実施することができた。

3.2 小学校の体育施設活用型スポーツエコシステム

3.2.1 関係者の現状・意向調査

神戸市では、これまで小学校の教師が主導して実施していた部活動が廃止されたこと、スポーツ協会活動が本来の目的から乖離し大会出場のための練習の場となっていること、子供の多くが運動不足であることなどに課題感を持っていたため、小学校の体育館を活用した新たなスポーツ機会の提供の可能性についての調査を実施した。

神戸市内の小学校の体育館の活用状況は、以下のような状況であり、全体的には稼働率が高いが、地域による差が見られる。また、これらは1年に1回程度の抽選であり、曜日・時間を長期的に確保する形式の予約であるため、予約があっても毎週利用されているとは限らない。これは、ICTシステムによる管理が行われれば、より柔軟な運用と稼働率の向上が期待できる部分だと考えられる。

表 29 学校体育館の予約状況

	運動場				体育館			
	土曜午前	土曜午後	日曜午前	日曜午後	土曜午前	土曜午後	日曜午前	日曜午後
A 地域	赤	赤	赤	赤	赤	赤	白	赤
B 地域	白	白	白	白	赤	赤	赤	白
C 地域	白	白	白	白	赤	赤	赤	赤
D 地域	赤	白	赤	白	白	白	白	白
E 地域	白	白	白	白	白	白	白	白
F 地域	赤	赤	赤	赤	白	白	白	白
G 地域	白	白	赤	白	白	白	白	白
H 地域	赤	赤	赤	赤	赤	白	白	白
I 地域	赤	赤	赤	赤	白	白	白	白
J 地域	赤	赤	赤	赤	白	白	赤	白

※稼働率 100%を赤、90%以上を橙、90%未満～70%以上を桃、70%未満を白で表示
出典) 教育委員会提供データをもとに NTT データ経営研究所作成

神戸市では学校を利用する活動は、昭和 40 年代から委託事業として学校施設開放事業を実施してきたが、平成 27 年度より地域住民による自主事業として新しい運用をされることとなった。「学校施設開放の手引き¹⁾」で示されている通り、①営利を目的としない(営利活動での利用も禁止)、②使用料がかからない、③学校施設開放運営委員会に登録した団体のみが利用できることが方針として定められている。このため、現在の施策の中では、スポーツ指導者が子供や地域住民向けのスポーツ教室を有料で開催することは難しいことがわかった。

¹⁾学校施設開放の手引き <http://www.city.kobe.lg.jp/child/lifelong/31kaihoutebiki.pdf>

総合型地域スポーツクラブについては、平成10年から開始されている。神戸市は他地域で行われている総合型地域スポーツクラブと異なり少年サッカー、野球チームなどが主たる取組となっており、会費制の事業である。もともとの総合型地域スポーツクラブの趣旨は多世代が多様なスポーツ体験をするところにあるため、本来の趣旨と異なってしまっていることが課題として挙げられており、多様なスポーツができる体制に移行したいという意向が教育委員会内部にあるものの、仕組みを変えるのは市民への理解を得ることが必要であるため、本年度の事業の中でスポーツ指導者が新規でスポーツ教室を立ち上げるのは難しいという判断があった。

また、学校施設を活用する活動としては、スポーツ協会活動もある。これまでは小学校の教員が指導を行うことが多かったため、無料で開催されている。しかし、教員の働き方改革の流れを受けて、土日の活動には教員が関与しない方針が定められた。このため、土日の開催がほとんどなくなってしまっている状態である。

そこで本事業では、スポーツ協会活動の中で実証実験としてスポーツ協会活動に指導者派遣を行うモデルを検討することとした。

1) 教育委員会等ヒアリング結果

スポーツ協会活動を担当している教育委員会と複数回にわたる議論を行った。

スポーツ協会活動は、スポーツをしない生徒たちに対して“スポーツ機会の創出”を行うことを一番の目的にしているが、現状では大会に出ることを目的にした活動に偏ってしまっている傾向があるため、本来の目的であるスポーツをしない生徒たちのスポーツを始める場、継続する場としての活用があまりできていないのが現状である。

ヒアリングにより、以下の課題があることが分かった。

- ① 学校施設開放、総合型地域スポーツクラブ、スポーツ協会活動を管轄する行政担当、運営管理者等が異なっており、調整に時間が必要である
- ② 学校施設を市民に開放するためには、鍵の管理や指導者の質などの責任問題を解決する必要がある
- ③ 学校施設を営利目的で活用されていることは禁止されているが、スポーツ協会活動における指導者招聘、子供のスポーツ機会の増加等の目的であることの明確化、及び、指導者に支払う予算の確保が必要である
- ④ 学校間での不平等を避けるため、各校への説明や意向確認等が必要である

本事業では、以下の通り教育委員会や小学校校長とのヒアリングを重ね、学校施設の活用を推進する上での課題や、解決策についての検討を行った。

表 30 教育委員会ヒアリング概要

日時・場所	議事概要
<p>2018年 7月11日 神戸市教育委員会</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ庁事業の趣旨説明 ・学校施設における現状・意向調査 <ul style="list-style-type: none"> －課題感を持っている校長先生がいる学校を対象に、スポーツ協会活動の中の取組として実施する形がよい －スポーツ協会は小学校区に1つ設置しており、代表は学校長である。目指しているのは色々なスポーツが体験できる場を提供すること。 －保護者からは、指導者に入ってほしいという声も上がっている <p>⇒スポーツエコシステムの仕組みの中で様々な指導者が教室を提供することにより、これらの課題解決ができる可能性がある。ただし、営利目的では活動できないため、実施予算が課題となった。</p> <p>⇒教育委員会が小学校校長に声掛けをして、意向を確認することとなった。</p>
<p>2018年 8月29日 神戸市教育委員会</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校校長の意向確認 <ul style="list-style-type: none"> －スポーツ協会活動は校長の責任の下で実施しており、活動内容と鍵の管理の責任は校長にある。指導者の質、及び鍵の管理に責任を持てる状況であることが確認できなければ、導入は難しいとの回答があった。
<p>2018年 10月24日 神戸市教育委員会</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教育委員会の意向確認 <ul style="list-style-type: none"> －スポーツ協会活動は、大会に向けた練習を行う活動が中心となっているが、学校によっては大会参加者集めに苦戦するケースもある。また、小規模校では活動の継続についての議論も出ている。 －神戸市では260名の外部指導員が登録をしている。今後については、単独指導、単独運営のできる指導者を採用していきたい。 －スポーツエコシステムの活動としてモデル実施を行うことを、年度内に実施できるように調整したい。 <p>⇒校長が集まる機会があるため、スポーツエコシステムについてのヒアリングを行うこととなった。</p>
<p>2018年 11月19日 神戸市総合教育センター</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校校長8名に対するスポーツエコシステムの趣旨説明 ・小学校校長8名に対する現状・意向調査 (神戸市内小学校校長8名、教育委員会2名) <ul style="list-style-type: none"> －スポーツ協会活動が活発な小学校では、保護者の思いが強く、練習量が増えすぎる傾向がみられる －活動がない学校については、立地的な問題もあり近隣に指導者がいないために活動ができていないという課題がある －全体としては、スポーツ協会活動の本来の目的である「運動機会の創出」から「大会へ出場する」ということに重きを置いてしまっている学校が多く、運動していない子を巻き込めていないことが大きな課題である。 <p>⇒今後、活動が活発な学校とそうでない学校をヒアリングし、この2つの学校をモデル校としてスポーツエコシステムの活動をすることを提案。</p>

<p>2018年 12月14日 神戸市立小 学校</p>	<p>・小学校校長ヒアリング</p> <p>ースポーツ協会活動は活動している時期は平日毎日のように特定のスポーツ種を3か月間などの期間を区切って実施している。</p> <p>ー指導は、種目経験者の保護者の方が行っているため、専門的な指導ができていないことが課題</p> <p>ースポーツ協会活動を行う上での課題としては、参加する生徒たちの管理や情報伝達の方法、指導者の質に課題がある。現状の管理や伝達方法は全てアナログ（紙での名簿管理や手紙配布）で行なっているため、ICTを活用して参加している生徒の把握、各種イベント毎への出欠席の管理、活動実施に伴う連絡事項などを一括で行うことができればかなりの負担軽減ができる</p> <p>⇒専門的な指導者を紹介しつつ、参加者募集の部分にICTシステムを導入して実証事業を実施することで同意</p> <p>*打ち合わせ後、具体的な教室開催に向けて、調整を進め、実際に指導者のマッチングができる環境まで整えられた。しかし、1校のみで教室開催を行い、大会を実施することに対して、不平等だという意見が出る可能性があるため、小学校での教室開催は見送られることとなった。</p>
--	--

3.2.2 エコシステムモデル構築

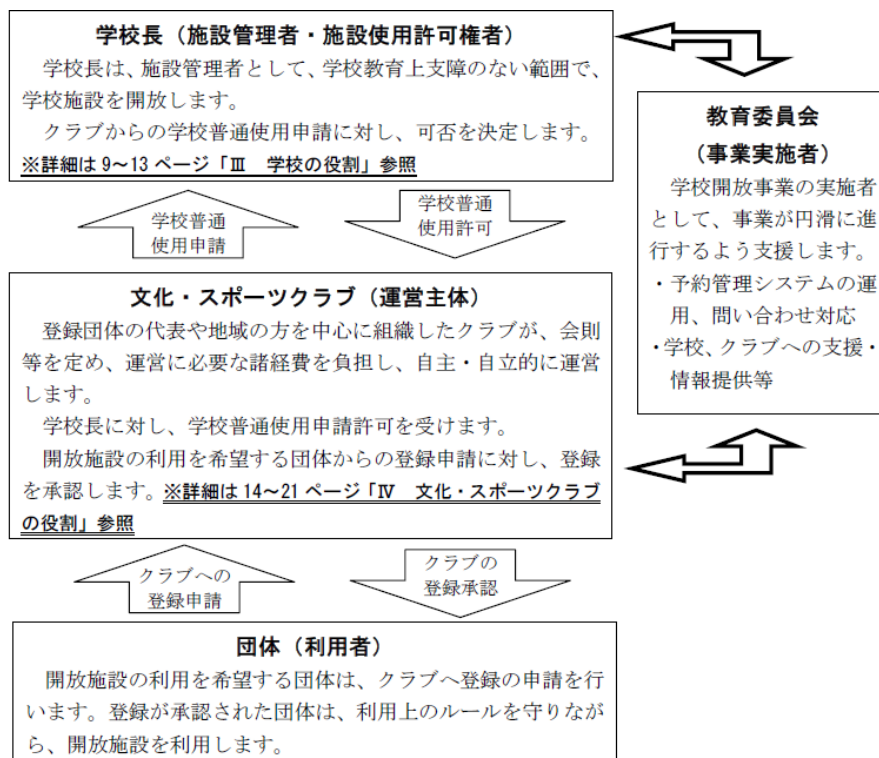
学校の体育館について、一般に予約貸し出しを進めている地域事例は既に存在している。体制と役割を明確化して、学校開放の推進と予約システムの活用を進めている以下のような事例を参考にしていくのが良いと考えられる。

1) 横浜市「クラブ型組織が運営する学校開放」

横浜市学校開放事業「学校施設開放の手引き」によると、横浜市内の各学校の校庭、体育館、音楽室、会議室、美術室、視聴覚室などを団体登録した市民に貸し出している。校庭・体育館の開放は平日の18:00～21:00、日曜・祝日の9:00～21:00が目安とされている。「営利を目的とする活動」は使用許可の対象外とされている。

団体登録は、各学校に設置した「文化・スポーツクラブ（登録団体や地域住民等からなる組織）」が基準を定めて可否を決定している。利用料は徴収しておらず、夜間の電気代のみ納付を求めている。ただし、文化・スポーツクラブ運営のために、登録団体から会費を集めている。鍵の授受・施錠は文化・スポーツクラブが行っている。

横浜市では、横浜市教育委員会が「横浜市学校開放予約管理システム」を用意しており、これを各学校の文化・スポーツクラブが活用して、学校開放を運用する形となっている。



出典) 横浜市学校開放事業「学校施設開放の手引き」(平成31年1月)
<http://www.city.yokohama.lg.jp/kyoiku/gakusyu/open/pdf/kaihou-tebiki.pdf>

図 47 横浜市施設予約の体制図

2) 新宿区「事業委託型学校開放（学校施設開放事業）」

新宿区では公益財団法人新宿未来創造財団に事業委託を行い、新宿区立小中学校の体育館及び校庭等の学校施設の開放を行っている。

開放を行っている学校等ごとに、運営委員会という会議体を設けている。毎月原則 26 日に開催される運営委員会に参加し、2 か月先の開放枠を登録団体間で使用調整を行い、使用申請をすることができる。また、運営委員会方式による使用調整後に空いている開放枠について、登録団体はインターネット上の操作から施設使用申請することができる。

新宿未来創造財団は、区立スポーツセンターや屋外スポーツ施設、歴史博物館、文化センター、生涯学習館等の施設の指定管理を受けており、これらの施設を総合的に管理する「レガス新宿施設予約システム」を運用している。学校開放も同システムから予約することが可能である。

ゲストさん

利用者番号
パスワード
ログイン

トップページへ戻る

一般メニュー
空き状況の確認
抽選申込件数の確認

申し込み対象期間外です。学校施設開放のインターネットによる予約期間は、利用希望月の前月の5日から18日です。

分類
ctrlまたはshiftキーで複数選択できます。
屋内スポーツ施設
学校校庭スポーツ開放
屋外スポーツ施設
生涯学習館
歴史博物館
解除 確定

目的
解除 確定

施設
ctrlまたはshiftキーで複数選択できます。
解除 確定

部屋
ctrlまたはshiftキーで複数選択できます。
解除 確定

表示開始日選択
開始日 平成31年03月19日
曜日 日 月 火 水 木 金 土 日 祝日
検索

出典)「レガス新宿施設予約システム」

(https://user.shinjuku-shisetsu-yoyaku.jp/regasu/reserve/gin_menu)

図 48 レガス新宿施設予約システムの予約ページ

4. 考察

4.1 スポーツ指導者についての課題と考察

●スポーツ指導者からのニーズ

スポーツ指導者は、本事業では日本健康運動指導士会の協力により、指導者の確保をすることができた。書面での案内であったにもかかわらず、短期間で 20 名の指導者登録が得られたのは、活躍の場を拡大したい、企業に向けたアプローチをしたいというニーズがあったからだと考えられる。

●スポーツ指導者の質の担保

指導者の質の確保については、健康運動指導士の有資格者などとする程度でのフィルタリングすることが可能である。本事業において、登録した指導者から提供されたコンテンツは魅力的な内容のものが多く、指導者が開催した教室の満足度も高かった。

神戸市のなかでは、健康創造都市 KOBE 推進会議という会議体で情報共有できる仕組みがあるので、指導者に関する評判は会議や対面での口コミで共有することが可能である。

また、健康運動指導士会でも指導者に対する様々な研修会を開催しているが、必要に応じて指導者のスキルアップや情報共有に向けた講習会などを開催することは質の担保につながると考えられる。

●既存のスポーツ指導者バンク

WEB サイト等の検索結果から、他地域にも自治体が整備した指導者バンクや専門家を抱える団体も存在するが、あまり活用されていない状況がみられた。また、指導者バンク・団体は、企業等からの依頼に応じて指導者・専門家を紹介するが、指導者バンクや団体が指導者・専門家の活躍の場のために教室企画をするというケースはほとんど見られなかった。

既存の指導者バンク・団体が、企業内会議室等と指導者のマッチングを担うことができれば、指導者の活躍の機会が拡大するのではないかと考えられる。

4.2 施設利用についての課題と考察

●公共体育施設

神戸市のような大都市の場合、体育施設の稼働率は95%という非常に高い状況であり、施設側に稼働率向上という意向はほとんどないことが分かった。

また、神戸市の場合、体育施設の管轄が公園管理課、教育委員会、健康福祉課等複数に跨っており、さらに指定管理事業者も施設によって異なる状況がみられた。

公共施設の予約は施設によって、午前、午後のような時間分類で管理しているものから、1時間ごとに予約をするものがあり、コート of 全面、半面利用などもあるため、一つの予約システムにすることが難しいとのことである。現在は、一部の施設の空き情報はWEB上で公開されているが、予約は窓口で行う方式をとっているものがほとんどである。よって、現時点での予約システムの一元化は難しい状況であった。

●学校体育施設

一方で、学校体育施設の稼働率は高くないため、市民の運動機会を増大させていくためには、学校体育施設の開放を進めていくことが必要だと考えられる。神戸市でも学校開放事業はあるが、年間を通じて曜日・時間を予約する形式であり、スポット予約ができないため、全体的な稼働率が低い状況となっている。学校体育施設のインターネット予約を導入している事例などを参考に、学校体育施設の開放を進めていくことが望ましい。しかし、学校体育施設は営利目的の利用が禁止されているため、指導者が教室開催を行うことは容易ではない。スポーツ協会活動や総合型地域スポーツクラブ等の中で招聘する形で指導者を活用する等、規則に抵触しない形で機会創出を検討することが必要である。

●公共施設の会議室

市民センター等の会議室の稼働率は低いが、運動などの目的外使用は制限されているケースが多く、ヨガなどで使った場合には地域住民からの非難が起きることがあるため、会議室の利用は推奨できなかった。しかし、稼働率が低い施設の利活用を進めていくことは市民サービスの向上、利用料収入の向上につながると考えられる。利用に関する優先順位や、利用日までの期間等を配慮した上で、様々な用途での活用を促す指針等を整備することが必要だと考えられる。

神戸市では、公共施設においては営利目的の使用が制限されており、4～6倍の料金が課せられることが条例で決められている施設もある。これも、稼働率の低い施設等においては規則を緩和し、市民の運動を促す機会を増大させることが望まれる。

●民間企業内会議室

今回の事業では、企業内スペースの活用について検討したところ、企業、指導者、参加者のそれぞれにメリットがあることが分かった。特に指導者にとっては場所代が不要であるため参加費の設定を低くできる、その結果、参加者を集めやすいという利点が見られた。

健康経営に取り組む企業が増えている中で、企業の空きスペースを活用した健康・運動教室の開催ニーズは拡大していくことが期待される。

4.3 利用者についての課題と考察

●企業従業員が期待する内容

本事業により、働く世代には運動不足の認識が高い人が多いが、肩こり対策・腰痛対策などの体調改善に関する教室があれば参加したいと希望する人が多いことが分かった。特に、企業の空きスペース等での運動機会の提供があれば運動機会が増えるという前向きな認識が多く見られた。価格は1,000円以下を希望する割合が高い。実際に企業内で開催したケースでは500円程度だと受容されやすいとの声が聞かれた。

●参加者の満足度・傾向

教室への参加者からは94%という高い満足度が得られると同時に、今後開催される教室への継続的な参加意向も見られた。

開催された教室への参加者からは、参加したことにより意識が変わり、昼休みにウォーキングを始めた、ウェアラブル端末で体調管理を始めた、椅子の高さの見直しをした等、日常生活への行動変容につながったとの声を得られた。

残業や突発的な仕事が多い職種の場合には、就業直後という時間帯でも申し込みしづらいということも分かった。ある程度就業時間が明確な職種のほうが、就業直後の時間帯での開催が喜ばれるのではないかと考えられる。

●場所を提供する企業のメリット

企業内で予算を付けられなくても、従業員が支払う参加費により、教室開催を行うことができることがメリットである。また、教室の内容についての企画は指導者が行うため、企業側が調査・企画を行う手間を省くこともできる。

本事業において場所を提供した企業からは、従業員がとても喜んでくれることが分かり、企業内コミュニケーションの向上にも寄与するとの声も得られた。

4.4 ICTについての課題と考察

●ICTシステムのマッチング機能

本事業では当初、指導者、施設、参加者の3つをマッチングさせるICTシステムを想定していた。しかし、指導者と施設をマッチングするタイミングと、それを利用して教室を参加者に提供するタイミングは異なるため、一度にすべてをマッチングさせることは必要ではないことが分かった。

●本事業におけるICTシステム

本事業では、「自治体や健康創造都市 KOBE 推進会議がシステム利用料を継続的に支払うのは難しい」という意見があったため、無料のシステムを組み合わせた形での運用を計画した。指導者と施設のマッチングをするため、民間施設が既に登録されているスペースマーケットの協力が得られたことは、エコシステムの構築上で大きなメリットとなった。スペースマーケットの仕組みの中には、予約した施設でイベントを開催する場合に、イベントの告知・申込管理もできる機能があり、スペースマーケットを活用すれば1つのシステムで指導者、施設、参加者のマッチングができることが分かった。

一方で、スペースマーケットの場合、一部の利用者にだけ情報を公開するということができないため、企業の空きスペースをシステム上に掲載するとその情報が公開されてしまうことが課題となる。さらに、無料の会議室情報を掲載することはできないため、企業内会議室等の掲載はできなかった。

本実証では、参加者募集に関してはこくちーずの活用も推進した。指導者が教室情報を酷チーズに掲載し、申込管理も指導者が行う方式であるため、企業は申込管理をする必要がないというメリットがある。ただし、企業は申し込み状況の把握ができないため、企業側が集客努力をする意識が生まれづらいという側面が見られた。

また、スペースマーケット、こくちーず、Googleなど複数のシステムを活用したため、当社も指導者も複数のIDが必要であり、利便性が低いという欠点があった。本格的に運用するためには、専用のシステムが望まれる。

4.5 スポーツエコシステムの考察

本実証事業から得られた情報をまとめると、指導者が教室開催をしやすいのは企業内会議室等であることが示された。

まず、公共施設は営利目的の事業を開催することに対して寛容ではないため、指導者が教室を開催しにくい状況にある。

一方、民間施設はそのような制限はない。しかし今回の実証事業において、企業外施設で開催した教室には参加者がほとんど集まらなかった。ターゲットとした企業従業員は、運動不足の意識は強いが、忙しくて運動する時間をとることができない状況であり、場所を移動する時間も惜しんでいると考えられる。他方、企業内会議室等で開催した教室は、移動時間が不要であり、企業から無料で会議室等を提供されるため価格も安く設定されることなど、様々なメリットがあることが示された。指導者にとってもこれまでアプローチをすることのできなかつた企業従業員に直接教室開催をすることができるので、大きなメリットとなることが分かった。

本実証事業では、当社が企業内会議室等の情報を収集して指導者とマッチングをさせたが、特定の指導者のみが閲覧できる ICT システム上に会議室等の空き情報を掲載し、指導者が自由に予約して教室を開催することができるようになれば、参加者にとってより多くの運動機会が創出され、シェアリングシステムとしても自立していくことが期待される。

表 31 指導者によるスポーツ施設の活用可能性（神戸市）

		神戸市の状況・課題				活用に関する総合的な評価
		稼働状況	営利目的の利用	指導者メリット	ICT化の状況	
公共	公共スポーツ施設	・すでに稼働率が約95%であり、空きがない状況	・営利目的の場合、利用料が3～6倍になる	・施設が活用できることはよい ・現状では予約が複雑	・指定管理者が施設ごとに異なる。 ・予約方法が複雑 ・窓口予約が必要	低 既に高稼働率であり、営利目的の利用は利用料が上がる
	公共会議室	・稼働率は6割程度	・営利目的の場合、利用料が3～6倍になる	・（運動のような）目的外利用は認められない可能性	・施設の空き状況などはWEB上で閲覧可能	中 条例等の整理や手続きの確認が必要
	学校体育施設	・土日の稼働率は低い	・営利目的は基本的に不可	・施設が活用できることはよい ・団体による年間申し込みが基本	・ICT化されていない	中 条例等の整理や手続きの確認が必要
	公園	・公園内の多目的広場は地元の管理会が管理しているが稼働状況は不明	・公園で営利活動を行うには許可が必要	・広いスペースを活用できることはよい	・ICT化されていない ・予約方法が公開されていない	中 条例等の整理や手続きの確認が必要
民間	企業内会議室等	・場所の提供が可能な企業が数社あった	・問題はない ・会議室を有料で貸し出すことも可能	・参加者を集めやすいため、大きなメリットとなる	・企業内会議室情報を指導者に提供するシステムが難しい	高 ニーズもありシステムが整備されれば可能性は極めて高い
	企業外施設	・稼働状況は明示されていないが、空き時間も多いことが推察される	・問題はない	・営利目的で活用することが可能 ・利用料やキャンセル料がやや負担	・個別の民間体育施設情報は統合されていない。スペースマーケットにもヨガスタジオなどが登録されており、活用が可能	中～高 活用可能である一方、ニーズや情報周知に課題

5. 今後の展開

5.1 KOBE 健康経営推進型スポーツエコシステム

本実証により、健康経営推進型スポーツエコシステムが健康経営を推進する企業、企業の従業員、指導者それぞれのメリットとなることが分かった。健康創造都市 KOBE 推進会議において、企業内スペースを提供した企業から「とても楽しかった」「社内の若い社員から喜ばれた」という生の声を共有することができた。これにより、企業内スペースの提供については様子見をしていた企業においても波及効果があることが期待される。今後は、健康創造都市 KOBE 推進会議健康経営部会が中心となって、本事業を継続することが検討されている。

また、将来的には対象企業は部会に参加している企業だけに限らず、神戸市内に広げていくことにより、神戸市全体の健康経営が推進されることが期待される。

本事業では、実証事業としてマッチングに関する手数料は設定しなかったが、将来的に自立運営していくためには、手数料や登録料などの事業収入を得て、継続的な活動を行える体制を整えることが必要である。

5.2 小学校の体育施設活用型スポーツエコシステム

神戸市の小学校体育施設の活用を進めていくためには、学校開放を推進している事例を参考に、神戸市内の学校開放のための鍵の管理や予約管理等の体制を整えていくことが必要である。まずは、モデル校として 1~3 校ほどを選定し実施して、学校関係者、保護者、地域住民の理解を得ながら、神戸市に適した形でのシステム導入を検討するとよい。特に、現在、教育委員会や学校長、保護者等が感じている課題を解決し、多くの子供たちがいろいろなスポーツを体験できる機会を創出する仕組みを実現していくという目標を明確化したうえで、学校開放を進化させ、システムを導入していくというステップで検討を進めるのがよいと考えられる。